六　日米外交関係

270　昭和8年1月17日　在満州国武藤(信義)大使より内田外務大臣宛(電報)

シカゴ万博日本館敷地内に「満州館」を開設するとの満州国側決定について

新京　1月17日後発
本省　1月17日後着

第四〇號

今般滿洲國ニ於テハ本年六月米國市俄古ニ於テ開催セラルヘキ萬國博覽會日本館地域内ニ滿鐵ト共同出資ノ下ニ滿洲館ヲ開設參加スル事ニ決定シ本件打合ノ爲實業部永井工務科長、滿鐵中澤商工課員ト山下滿鐵出品協會員等十四日大連出發渡日セル趣ヲ以テ外交部ヨリ一行ニ對スル援助供與方依頼アリタルニ付委細一行ヨリ御聽取ノ上關係方面在外公館等ニ對シ適宜援助斡旋方御配慮相煩度シ

271　昭和8年1月25日　内田外務大臣より在シカゴ武藤領事宛(電報)

シカゴ万博日本館敷地内の「満州館」併置は対外宣伝上逆効果につき本件対処策回電方訓令

本省　1月25日後8時50分発

第三號

滿洲国側ニ於テハ同国ノ成立宣傳ノ意ヲ含メ「シカゴ」万国博覽会ニ參加ノ希望ヲ有シ滿鉄ト共同出資（經費二十五万円）ノ下ニ滿洲館設置ノ爲日本館敷地内ニ右併置方交渉アリタル処日本館敷地内ニ約五十坪位ノ「滿洲館」ナル名称ヲ冠セル附屬建物式ノ別館ヲ併置スルハ独立滿洲国ノ表現方法トシテ其趣旨ニ副ハサルノ憾アリ殊ニ支那側ノ大規模ナル建物ニ比シ甚タ見劣リシ面白カラサルノミナラス外観上如何ニモ滿洲国カ朝鮮台湾ト同様日本ノ屬領ナルカ如キ感ヲ与ヘ悪宣傳ノ材料ヲ供スルノ惧アリト認メラル商工省及本邦側出品者並出品協會側ニ於テモ右ノ見地ヨリ其迷惑トナルヲ虞レ「滿鉄館」ノ名義ナラハ敷地割愛ニ應スヘキモ「滿洲館」ナル名目ニテハ之ニ応シ難シトテ反対ノ意向ヲ言明シ居ル次第ニテ結局本件ニ関シテハ「滿鉄館」ノ名目ノ下ニ内容ニ於テ滿洲国ノ宣傳ニ力ヲ注キ其ノ実質ヲ収ムルカ或ハ滿洲国側ニ於テ独立ニ參加ノ方法ヲ取ルノ他ナカルヘシト認メラルヽ處

(一)日本館敷地内ニ滿洲紹介ノ爲ノ一館ヲ設クル場合其名称ヲ如何ニスヘキヤ

(二)滿洲国側独立參加ノ場合博覽會当局ノ承諾ヲ得ル見込アリヤ就中敷地借入可能性如何

等ニ関シ貴見爲念至急回電アリ度シ

（本電參考トシテ在米大使ヘ暗送アリタシ）

272　昭和8年1月26日　在シカゴ武藤領事より内田外務大臣宛(電報)

「満州館」を「満鉄館」と名称変更すべき旨並びに満州国の独立参加は困難である旨意見具申

シカゴ　1月26日後発
本省　1月26日後着

第八號

貴電第三號ニ關シ

(一)日本館敷地内ニ滿洲館ヲ設クル事ハ御來示ノ如ク悪宣傳ノ材料ト成リ日滿兩國ニトリ不利益ヲ招ク惧アリ結局滿鐵館ナル名稱トスルノ外ナカルヘキカニ存ス

(二)博覽會當局（ニ）問合セサル限リ確カナル事ハ申上ケ難キモ本官ノ想像ヲ以テスレハ博覽會側トシテハ滿洲國參加ヲ歡迎スルナランモ御承知ノ如ク外國ノ參加ハ形式上米國政府ノ招請ニ基クモノナル關係上滿洲國參加申込ノ場合博覽會ハ之カ諾否ニ關シ一應國務省ニ照會スヘク若シ然リトセハ獨立參加ニハ相當ノ困難ヲ伴フヤニ懸念セラル尚敷地ハ殘存セルモノアレトモ目星シキ部分ハ既ニ約束濟ト成リ居レリ但シ博覽會側ニテ建設セル陳列館内ニハ尚相當ノ場所有ル模様ナリ

在米大使ヘ轉電セリ

273　昭和8年2月3日　内田外務大臣より在シカゴ武藤領事宛(電報)

日本館敷地内に「満州館」ではなく「満鉄館」

特設について

本　省　2月3日後6時30分発

第五號

貴電第八号ニ関シ

満洲館ハ沙汰止ミトナリ日本館敷地内ニ約五十坪ノ満鉄館ヲ特設スルコトトシ目下満鉄側ト出品協会側トノ間ニ折衝中ノ趣ナリ

本電参考トシテ在米大使ヘ暗送アリ度シ

274　昭和8年2月16日　在ニュー・ヨーク堀内総領事より内田外務大臣宛(電報)

外務省、満鉄および陸海軍の共同出資による対米啓発を目的とした英文雑誌発行計画について

ニュー・ヨーク　2月16日後発
本　省　2月17日後着

第二七號（極秘扱？）

一[1]昨年來ノ時局ニ關聯シ當地ニ於テ極東關係ノ記事論説等ヲ自由ニ發表シ日本ノ態度政策ノ宣明ニ資スル爲英文雑誌ヲ發行シ度キ考ヲ以テ是迄本官ニ於テ種々研究ヲ凝ラシ居リタル處當地滿鐵出張所及華府陸海軍武官ニ於テモ此ノ種ノ計畫ニ共同出資シ今後日支問題ノ發展及次回ノ海軍軍縮會議等ニ對應シテ必要ナル「パブリシチー」ヲ行フ一助タラシメ度意嚮ヲ確メタルニ付篤ト内協議ヲ重ネタル末

(一)差當リ向フ二年間ノ豫定ヲ以テ英文週刊雑誌約十六頁大ノモノヲ毎號一千部宛發行シ當分各方向ニ無料配布シ將來購讀料及廣告料等收入ヲ得ルニ從ヒ發行部數ヲ增加スル事

(二)右經營者ニハ河上清ヲ當テテ全責任ヲ負ハシメ赤木英道、宮川鐵男及「ハーバート、ヒューストン」ヲシテ之ヲ助ケシム（宮川ノ外ハ孰レモ無給）翻譯者一名及「タイピスト」二名ヲ使用スル事

(三)[2]右經費豫算ハ一箇月約一千弗以内トシ之ヲ外務、滿鐵及陸海軍ニテ三等分シ前二者ハ毎月三百三十三弗宛支出シ陸海軍ハ共同ニテ一時金八千弗（内陸軍五千弗）ヲ出資シ此ノ分ハ滿鐵側ニ寄託シテ毎月支出シ行ク事

(四)右ノ趣旨ニ依リ至急實行方承認ヲ求ムル様各關係者ヨリ夫々本部ヘ稟請スル事

ニ打合セタリ

右雑誌ノ經營ハ河上ニ於テ全責任ヲ負フ事勿論ナルモ當館ニ於テ滿鐵側ト聯絡ヲ取リ適宜指導ヲ與フル筈ナリ本件計畫ハ出淵大使ニ於テモ贊成シ居ラルルニ付至急御承認ヲ仰度尚陸海軍參加ノ點ハ外部ニ對シ極秘ト爲ス様御配慮ヲ請フ

米ヘ暗送セリ

275　昭和8年2月22日　在米国出淵大使より内田外務大臣宛(電報)

対米啓発のための英文雑誌発行については賛成するが陸海軍側出資経費は当省において支出すべき旨上申

ワシントン　2月22日後発
本　省　2月23日後着

第一三九號（極秘）

貴大臣宛紐育總領事發電報第二七號ニ關シ

本件計畫ハ本使ニ於テモ贊成シ居リ出來得可クハ成ルヘク恒久性アル機關ノ設置ヲ希望シ居ル次第ナルカ紐育總領事ニ於テ滿鐵及當館陸海軍武官トモ打合ノ上取纏メタル案ナルニ付此ノ際至急御承認方御詮議ヲ請フ

尚經費支出方ニ付テハ今後ノ事モアルニ付滿鐵ト外務省ノ支出トスル方適當ナル可ク陸海軍側出資豫定ノ分モ本省ニ於テ然ル可ク御取纏メノ上外務省保管ノ相當經費ヨリ支出セラルル様致度シ

右ハ當館兩武官トモ打合濟

紐育ヘ轉電セリ

276　昭和8年2月23日　在米国出淵大使より内田外務大臣宛(電報)

ハル国務長官就任に対する米国紙論評について

ワシントン　2月23日後発
本　省　2月24日前着

第一四三號（後廻電報）

往電第一四二號ニ關シ

「ハル」國務長官就任決定ニ對シ廿三日諸新聞ハ戰債問題、世界經濟會議等國家（編注）ノ急務ニ對シ氏ハ最モ適任者ナリトテ稱讃シ居レルカ主ナル新聞論評左ノ通リ

紐育「タイムス」

國務省トシテ即今解決ヲ要スル諸問題ニ對シ「ハル」ハ格

別適當者ナリ氏ハ長キ議會生活ニ於テ租稅及關稅問題ノ權威トシテ知ラル、殊ニ通貨ニ關スル造詣深キヲ以テ若シ戰債ノ代償トシテ事外國貨幣ノ安定問題ニ轉センカ氏ノ知識ト經驗ハ最モ重要性ヲ有スヘシ更ニ氏ノ人格、鋭敏ナル「インテリヂエンス」能力ハ國務長官トシテ最モ相應シク議會ノ同僚及新聞方面ヨリノ慇懃ナル贊同ハ氏ノ前途ヲ祝福スルモノト謂フヘシ

「ボルチモーア、サン」

「ハル」ノ任命ハ頗ル重要性ヲ有ス、卽チ夫ハ政府ノ權限ノ關スル限リ現在ノ國家的難難ヲ齎スニ大ニ與リタル高率關稅ノ引下ヲ豫想セシムルヲ以テナリ一九二二年議會カ「フオードネー」關稅ヲ通過シタル際氏ハ「デイザストラス、ムーヴ」ナリトテ斷然反對セリ、一九三二年度民主黨ノ賢明ナル關稅政綱ハ氏ノ筆ニ成ル氏ノ任命ハ快明ナル國際貿易關係確立ヲ保障スルモノナリ

紐育「ヘラルド、トリビユーン」

「ハル」ハ終始低率關稅ノ提唱者タリ共和黨ノ關稅政策、保護政策ノ猛烈ナル反對者タリ恐ラク氏ノ考ハ「マツキンレー」、「タフト」張リノ舊式互惠主義ヲ採用セントスルニハ非サルカ但シ氏ハ長キ經驗ニ依リ關稅制定者ノ關係ヲ知リ拔キ居ルカ故ニ民主黨ノ方針タル諸外國トノ「バーゲイニング」ニ於テモ能ク之ニ處シ得ヘシ

編注　「国家」の個所に「刻下」との書込みあり。

277　昭和8年2月27日　在ニュー・ヨーク堀内総領事より内田外務大臣宛(電報)

対米啓発を目的とする英文雑誌発行の効果について

ニュー・ヨーク　2月27日後発
本　省　2月28日前着

第四二號（極秘）

貴[1]電第一六號ニ關シ

本件計畫ハ本官ニ於テ啓發機關ニ關シ種々研究ヲ凝ラシタル末差當リ經費及人繰ノ二點ニ於テ比較的容易ニ着手シ得ヘキ案ナリト思考シ稟請シタル次第ナリ

㈠此ノ種雜誌ハ勿論當初ヨリ多クヲ期待シ得サルヘキモ滿洲事件發生後當館ヨリ隨時各方面ニ配布シ居タル「ブレ

テイン」並ニ「パンフレット」ニ代ルヘキモノトシテ毎週發行シ新聞雜誌、大學、各種團体等言論ニ關係アル向並ニ財界方面ニ配布シタキ考ニテ極東問題ニ關シ一般ノ輿論ヲ惹起シ居ル際ニ相當ノ效果ヲ擧ケ得ヘシト思考ス現ニ目下休刊中ナル當地邦人經營新聞ノ貧弱ナル英文欄記事スラ之迄間々「タイムス」等ニ轉載セラレタルコトアル位ナリ

㈡經費ノ點ハ毎號印刷會社請負トナシ小規模ノ事務所費及從事員ノ俸給等ヲ加ヘ精細ニ見積リタル次第ニシテ前電ノ豫算ニ依リ充分持續シ得ヘキ見込アリ

㈢河上ハ責任者トナルモ華府ニ在リテ社說及「フイチヤーアーテイクル」位ヲ書クニ止リ其他ノ記事及編輯ハ赤木、宮川ノ兩人專ラ之ヲ引受ケ殊ニ赤木ハ主幹トシテ對外事務ニ當ル筈ナルヲ以テ決シテ河上ノ活動ヲ妨ケル懸念無ク實ハ同人モ内諾シ居レリ

尙[2]啓發機關トシテハ所謂「パブリシテイ、ビユーロウ」ノ利用、「ニユース、エージエンシー」設置等種々ノ考案モ有リ得可ク本官ニ於テ篤ト是等ニ付研究ヲ遂ケ又屢玄人筋ノ意見ヲ求メタル事有ルモ結局何レモ多額ノ經費（一年五、六萬弗乃至數十萬弗）ヲ要シ且適當ノ人物モ得難ク而モ效果割合ニ鮮カル可シトノ結論ニ達セリ本件雜誌發行ノ場合ニハ現ニ當館ニ於テ實行中ノ外人利用、講演、放送「パンフレット」「ニユース、リリース」等ノ補足トシテ相當效果ヲ擧ケ得可シト思考スルニ付是非共御承認方重ネテ御詮議ヲ請フ

米へ暗送セリ

278　昭和8年3月5日　在米国出淵大使より内田外務大臣宛(電報)

ルーズベルト新大統領の就任演説に対する反響について

ワシントン　3月5日後発
本　省　3月6日後着

第一八一號

往電第一七九號ニ關シ

「ルーズベルト」大統領ノ就任演說ハ一般ニ良好ナル反響ヲ與ヘ特ニ㈠adequate and sound currencyノ維持ヲ計ラサルヘカラス云々㈡議會カ緊急ナル事態ニ應シ得サルニ

於テハ廣汎ナル行政上ノ權能附與方ヲ求ムヘシ云々ノ二點一般ノ注意ヲ惹キタルカ㈡ノ點ニ付五日「ニユーヨーク、タイムス」ハ右ハ議會殊ニ上院ニ對シ一種ノ警告ヲ與ヘントシタル趣旨ニ相違無ク斯ル考案カ實際ニ行ハルヘシトハ考ヘラレスト論シ「フイラデルフイア、レコード」ハ右ハ一九一七年九月八日「ウイルソン」大統領ノ示セル例ニ倣ヒ金輸出禁止、兌換停止及銀行預金政府保證ヲ行フ意嚮ヲ示セルモノナルヘシト論シタリ尚右演說中當面ノ急務ハ國民經濟ノ建直シニシテ國際通商關係ノ改善ハ二ノ次ナリト言ヘル點ニ付「フイラデルフイア、パブリツツク（ママ）、レツヂヤー」ハ「ルーズベルト」ハ何等偏狹ナル國民主義的精神ニ基カスシテ米國第一主義ヲ言明セルハ經濟不況對策ヲ示セル點ヨリモ重大ナリト論シ又「ワシントン、スター」一記者ハ「ルーズベルト」カ對外政策ニ付 policy of good neighbor ヲ提唱シタルハ極東及獨逸ノ時局ヲ念頭ニ置ケルモノト見ル向有リ又國際通商ノ改善ハ第二ナリト言ヘルハ戰債問題等ノ迅速ナル解決ヲ希望シ居ル連中ヲ失望セシメタリ云々ト通信シ居レリ

279

昭和8年3月14日　在米国出淵大使より内田外務大臣宛（電報）

新渡戸博士による米国講演旅行の効果顕著につき同博士を起用して今後の対米啓発事業を推進すべき旨意見具申

ワシントン　3月14日後発
本　省　3月15日前着

第二一七號（極秘）

新渡戸博士ハ三月六日桑港發國際汽船霧島丸ニテ歸朝ノ途ニ就キタル處同博士ノ約一年ニ亘ル講演旅行ハ時節柄一般米人ニハ餘リ氣受良カラサル題目ナリシニ拘ラス同博士ノ米國ニ於ケル過去ノ經歷ト信望ニ依リ良ク聽講者ノ注意ヲ惹キタルモノノ如ク我國ノ立場ヲ諒解セシムル上ニ於テ相當ノ效果ヲ擧ケ得タルモノト認メラル然ルニ今後ノ方策トシテハ滿洲問題等ノ時局關係ノ講演ニノミ執着セス他面日米關係ノ基礎タル經濟及文化方面ヲ主トセル諸點ヨリ漸次根本的ニ一般米人ヲ啓發スル方針ニ出テ不斷ノ努力ヲ爲ス事必要ト存セラレ右ハ帝國カ聯盟脱退ノ國際難局ニ立チ日米關係ニ善處セサル可カラサルニ際シテハ特ニ之ヲ痛感セラルル次第ナリ從來此ノ種ノ計畫幾度カ行ハレ而モ其ノ效果顯著ナラサリシ所以ハ一ニ之ニ當ル人其ノ宜シキヲ得ス又人ヲ得ルモ恒久性ヲ缺キタル等ノ事情ニ基ク事御承知ノ通ナルカ新渡戸博士ハ本使ノ内々探リタル處ニ依レハ此ノ種ノ事業ニ其ノ餘世ヲ託スルノ決心有リ殊ニ同博士ナラハ夫人ノ關係モ有リ純粹ノ一學者トシテ米國内ニ居ヲトシ講演又ハ論文發表等ノ方法ニ依リ氣長ニ此ノ種ノ事業ニ當ラシムル場合ニモ政府筋ノ宣傳手先ト看做サルル虞モ無カル可キニ付此際同博士ヲ起用シテ對米啓發事業ノ一事ヲ引受ケシムル樣至急御詮議相成度尚同博士ハ本年夏加奈陀「バンフ」ニ於ケル太平洋問題調査會ニ出席ノ筈ニ付夫ヨリ引續キ東部ノ要地例ヘハ費府邊ニ居ヲ講（構カ）ヘシメ先ツ市俄古博覽會ヲ機會トシテ同地方ヲ始メ中西部、東部方面著名ナル諸大學乃至諸學會等ニ於テ講演セシムル樣致度西部方面ニモ必要ニ應シ出張講演モ可能ナル可シ右ニ對シ政府ヨリ差向キ三年間毎月生活費トシテ米貨一〇〇〇弗並ニ毎年一回歸朝及米國内旅行費用トシテ年學（額カ）米貨三〇〇〇弗乃至五〇〇〇弗支出ノ事ニ御詮議願度委細同博士ト御懇談ノ上何分ノ儀御電報請フ

280

昭和8年3月20日　在米国出淵大使より内田外務大臣宛（電報）

シカゴ万博を利用し対米啓発活動を推進すべき旨意見具申

ワシントン　3月20日後発
本　省　3月21日後着

第二三九號（極秘）

市俄古博覽會ハ武藤領事ノ云フ處ニ依レハ着々トシテ開催準備ヲ進メ居リ六月一日ニハ必ス開會ヲ見ルヘク全米ヲ擧ケテ不景氣ノ折柄乍ラ市俄古市ニテハ全米ヨリ多數ノ見物客ヲ誘引スルニ萬幅ノ努力ヲ爲シ居リ現ニ開催前ノ準備中ノ廣場ノ見物ヲ入場料ヲ徵シ觀覽セシムルノミニテモ昨年六月以降ノ入場者累計八十二萬人ニ達シ昨今計畫ノ進行ト共ニ一日平均一萬人ヲ數フル有樣ニテ開催後ハ夏季休暇等ヲ利用スル多數ノ米人ノ來往ヲ見ルヘク博覽會當局ニ於テモ博覽會以外ニ各種ノ會合ヲ催ス計畫ヲ爲シツツアルニ付從來我方ノ對米啓發事業上東部及西部方面ニ比シ比較的閑却セラレ居リタル中西部方面ノ啓發ニハ絶好ノ機會ト存セラル殊ニ帝國政府トシテハ參加申入ノ時機ハ多少他國ニ比

シ遲カリシモ申入ノ後現地ニ於テ既ニ着々トシテ準備ヲ急キ居レル我國ノ措置ハ非常ノ好評ヲ博シ同方面ノ人氣ハ一般的ニ良好ナル際ナルヲ以テ外務省トシテハ同博覽會開催期間ヲ利用シ同地ニ於テ米人啓發上ノ諸計畫ヲ進ムルコト最モ機宜ヲ得タルモノト信ス幸ヒニモ武藤領事モ既ニ在任數年ニ亘リ諸方面トノ聯絡ヲ開拓シ居レル際ナルヲ以テ同領事ノ下ニ事情ノ許ス限リ全米ノ啓發機關ヲ一時利用セラルルコト可然ト存ス同領事トハ今回當地出張ノ際モ當方面ニ於ケル考案トシテハ㈠矢代博士ノ「ボストン」滯在期間ヲ延長セシメテ市俄古方面ヘノ講演ニ便ナラシムルコト及往電第二一七號新渡戸博士ノ出張乃至實業方面ノ代辯者トシテノ小松隆等ノ出張講演等御詮議アリ度㈡博覽會ノ開催期間中紐育ノ安達、赤木等ノ講演者及桑港ノ H. H. Guy 中島、羅府ノ中澤等ヲ隨時出張講演セシムルコトモ特ニ莫大ノ支出ヲ要セスシテ實行シ得ラルヘク此ノ際前記㈠㈡共ニ至極適當ノ考案ト思考セラル就テハ右ノ各事項ニ付テハ何レ同領事ニ於テ追テ案ヲ具シ稟請ノ筈ナルニ付以上大体ノ方針ハ本省ニ於テ成ルヘク早目ニ御決定置キ相成度尚博覽會ノ開期中滿鐵館ノ設置アルヲ利用シ滿洲國ノ現狀及將來ノ有望ナルコトヲ一般米人ノ頭ニ植付ケ置クコト必要ナルハ申迄モ無キ儀ト存ス

市俄古及在米各領事ニ暗送セリ

281

昭和8年3月30日　在シカゴ武藤領事より内田外務大臣宛(電報)

「滿鉄館」における滿州国国旗掲揚意向の有無および出品物の内容等に関する米国政府当局からの照会について

シカゴ　3月30日後発
本　省　3月31日前着

第二五號（極秘）

楠瀬事務官及佐々木理事ト共ニ本官博覽會幹部「アルバート」ニ面會ノ際同人ハ内密ニ話シタキ事アリト冒頭シ

㈠日本館敷地内ニ建設セラルヘキ滿鐵館ハ滿洲國ノ國旗ヲ掲揚スル意嚮アリヤ否ヤ

㈡滿鐵館出品物ノ内容如何

ノ二點ニ付尋ネタルニ付滿鐵カ滿洲國國旗ヲ掲揚スル意嚮アルコトハ何等聞キ及ヒ居ラス又出品ノ内容ハ滿鐵ヲ中心

トスル滿洲ノ交通重要物産、各種事業及施設ノ進歩發達等ニ關スルモノヲ主トスルコトニ承知シ居ル旨返答シ更ニ本官ヨリ如何ナル理由アリテ右質問ヲ爲セルヤヲ質セルニ「ア」ハ極秘ニ願度シト前置キシ實ハ國務省ヨリ博覽會ニ對シ照會ノ次第アリ米國政府ハ滿洲國ヲ承認シ居ラサル處滿鐵館カ滿鐵ノ旗ヲ掲揚スルハ差支ナキモ滿洲國國旗ヲ掲揚スルコトハ認メ難ク又出品ノ内容ハ如何トノ申越ニ接セル旨ヲ語レリ申ス迄モナク滿鐵館ニ付貴電第三號御申越ノ機微ナル關係モアリ何等誤解ヲ招カサル樣陳列方法ニモ充分注意ヲ拂フ必要アル樣存セラルル次第ナルカ滿洲國國旗掲揚ニ關シ何等計畫有之次第ナルヤ及出品物ノ概略ニ付御知ラセニ預リ度ク其ノ他本件ニ關シ今後ノ應酬振等本官ノ心得置クヘキ事項御回電ヲ請フ

米へ轉電セリ

282

昭和8年4月2日　在米国出淵大使より内田外務大臣宛(電報)

米国での大統領をはじめとする政財界名士との会談に関する松岡代表報告について

ワシントン　4月2日後発
本　省　4月3日前着

第二八二號（極秘）

松岡ヨリ

拙者紐育到着以來同地ニ於テ「ハウス」、「ラモント」、「モリス」「フオーブス」、「メロン」（船中）等政界實業界ノ名士及「ハワード」等大會社系統ノ代表的人物、當地ニ於テハ大統領トノ謁見ヲ初メ國務卿、下院議長、上下兩院外交委員長（特ニ「ピットマン」トハ二時間ニ亘リ會談セリ）及委員乃至政界ノ裏面ニ於ケル有力者等ト接觸意見ヲ交換シ聯盟脱退トナリタル今後ノ日米關係ニ關シ相當立入リタル「コンフイデンシヤル、トークス」ヲ遂ケ其ノ結果種種御參考トナルヘキ事項モアル處萬一外間ニ漏レテ彼我共ニ迷惑ヲ蒙ルカ如キコトアリテハ面白カラサルヲ以テ萬事歸朝ノ上申上クルコトトシ敢テ電報セサルニ付右御含置ヲ得タシ

唯新大統領及國務長官ニ於テ我國ノ立場ニ付誤レル見解ヲ有シ居ルカ如キコトナキヤニ付テハ在歐當時ヨリ密ニ憂慮シツツアリタル處兩者トモ至極打解ケテ應接シ殊ニ大統領

ハ拙者舊知ノコトトテ「ミユーチユアル、フレンズ」ノ噂等モ出テタルカ政務多端ノ際ノ事トテ今回ノ壽府ニ於ケル成行及拙者ノ心境ニ付テハ「ジヤパンス、ケース」ナル「パンフレット」（紐育ニテ印刷セリ）殊ニ「フエアウエル、メツセージ」ニ付了察セラレタシトテ大統領ノ求ニ依リ右冊子ニ自署ノ上捧呈シタルカ尚先般ノ詔書ヲモ拜誦シテ其ノ御意ノ在ル所ヲ了得アリタキ旨述ヘタルニ肯キ居ラレタリ

今日迄ノ印象ヲ綜合スルニ少數者ヲ除クノ外ハ極東問題ヲ理解セサルコト驚クノ外ナシトモ言ヒ得ル處根本的日本ノ立場ニ付テハ相當理解シ居ルモノトモ認メラレサルニ非ス又聯盟主義者及平和論者等ノ偏見相當強キモノアリト認ム然ラハ新「アドミニストレーション」ハ舊政府ノ政策ヨリ轉換ヲ試ムヘキヤト云フニ成ル程此ノ方向ニ向ツテノ努力行ハレツツアルコトハ事實ナルモ必スシモ樂觀ヲ許サス此ノ間ニ幾多ノ危險ノ存在スルコトヲ見逃カスヘカラサル處此ノ邊ノ事情ニ至リテハ一層複雑機微ノ關係アルヲ以テ歸朝ノ上ニ讓ラサルヲ得ス

尚或外交裏面ノ消息ニ付突止ムル必要アリタルニ付特ニ駐米英、佛兩大使及前國務次官ト相當立入リタル會見ヲ遂ケ非常ニ資スル所アリタルカ是亦親シク申上クヘシ

申上クル迄モナキ儀乍ラ敍上ノ會見乃至米國民ニ對スル放送、新聞記者トノ會見等全然個人（單ナル一代議士）ノ資格ニ於テ爲スコトヲ明白ニシアリ爲念申添フ

283　昭和8年4月14日　在満州国武藤大使より内田外務大臣宛(電報)

満州国当局からの「満鉄館」における満州国国旗掲揚差控え意向および出品物内容等申越しについて

新　京　4月14日後発
本　省　4月14日後着

第三八七號（極秘）

閣下宛市俄古來電第二五號ニ關シ

滿洲國當局ヨリ左ノ通リ申來レリ

(一)殊更ニ滿洲國旗ノ揭揚ヲ爲ス事ハ差控フヘシ尤モ館内裝飾用ノ旗ノ中ニ滿洲國旗ヲ加フル樣ノ事有之ヤモ計リ難シ

(二)出品物ハ滿洲現勢模型、綿羊改良行程、農家模型、風俗人形、奉天ノ今昔（油繪）、大連ノ今昔（同上）、星ケ浦（同上）、新京（同上）、極東地圖、圖表、滿蒙物産品

(三)右ノ中極東地圖トハ横一〇呎、縱一二呎位ノ滿洲國ノ地勢ヲ現ハシタルモノニテ國境ハ明確ニ記載セラレサルモ Map of Manchoukuo ト記入セラレ居ル由尚以上(一)及(二)ニ付テハ滿鐵側ト協議濟ノ由ナリ

米、市俄古ニ轉電アリ度シ

284　昭和8年5月3日　在シカゴ武藤領事より内田外務大臣宛(電報)

シカゴ万博における対米啓発のための具体案について

シカゴ　5月3日後発
本　省　5月4日前着

第三三號（極秘）

市俄古博覽會ノ機會ヲ利用シ對米啓發ヲ行フ案ニ關シテハ在米大使發閣下宛電報第二三九號ニ依リ御承知ノ通ナル處之カ具体案作成ニ關シ過般本官華府出張歸來之カ研究ヲ進メ關係ノ在米各館トモ打合ヲ行ヒ其成案ヲ得タルニ付不取敢左ノ通要領電報シ委細郵報ス

(一)在米ノ啓發機關ヲ會期中市俄古ニ集中スルコト

一、羅府ノ中澤及桑港ノ中島ヲ交代ニ市俄古ニ常置スルコト

(イ)中澤ニ關シテハ佐藤領事ニ照會ノ結果六月中旬ヨリ八月中旬迄當地ニ派遣方承諾ヲ得タルニ付英文起草及口演ニ當ラシメ度シ

(ロ)中島ニ關シテハ若杉總領事ト交渉中ナルカ大体八月中旬ヨリ十月末迄卽チ中澤ノ後ヲ受ケテ同樣ノ仕事ニ從事セシメ度希望ナリ

(ハ)在紐育堀内總領事ヨリノ申越ニ依レハ當地ニ常置ノ筈ナル滿鐵ノ宮川哲夫ヲ隨時利用シ得ル由ニ付之モ利用シ度シ

二、會期中隨時市俄古ニ出張セシムル者トシテハ紐育ノ安達金之助赤木榮堂及「ピツツバーグ」ノ山本箕作アリ

(イ)安達及赤木ニ關シテハ堀内總領事ヨリ承諾ヲ得タリ

(ロ)山本箕作ハ口演業者ニシテ些田(細カ)ノ報酬ニ甘ンシ田舍ニ赴クヲ(ニテカ欠)サル特長アルニ付隨時利用致度シ

(二)本邦ヨリ出張セシムルモノ

一、新渡戸博士、加奈陀晩府ニ於ケル汎太平洋會議終了ノ後是非トモ出張セシメラレタシ
二、小松隆、實業方面ノ代辯者トシテ日米通商關係ヲ主トシテ講演セシメ度ク同人ハ「ロータリアン」ナルヲ以テ各「ロータリー」倶樂部ヲ中心ニ講演セシムル時ハ效果大ナルヘシ
㈢美術學校矢代博士ノ市俄古立寄ニ關シテハ往電第三〇號稟請ノ通是非實現セシメラレタシ
㈣活動寫眞及幻燈ノ利用、三月十五日附普通拙信第六二號稟請ノ計畫ニ關シテハ既ニ考慮中ナル處尚右以外ニ本邦紹介ノ爲當館ニ優良ナル映畫及幻燈ヲ備付ケ隨時利用シ度キニ付適當御送付ヲ請フ
㈤經費
以上ノ計畫ニ要スル經費中直（接）當館ニテ取扱フコトトナルヘキ經費見積左ノ如シ
一、中澤　八百六弗九十四仙
二、中島　六百五十六弗九十四仙
三、安達及赤木（交代ニ四回出張）　六百六十九弗六十仙
四、山本（隨時）三百弗
五、會期中啓發ノ爲宴會ヲ催シ米國人有力者新聞記者等ヲ招待スル費用一、〇〇〇弗
六、會場借料其他　五百弗
七、雜費　五百弗
合計　四千四百三十三弗四十八仙也
尚本件御詮議ノ上ハ至急着手致度ニ付何分ノ儀速ニ御電示ヲ請フ
米ヘ暗送セリ

285　昭和8年5月29日　在米国出淵大使より在ニュー・ヨーク堀内総領事宛（電報）

日米関係改善方策に関する外務大臣訓令について

ワシントン　5月29日前11時0分発
ニュー・ヨーク　5月29日前11時50分着

合第二六九號
大臣来電第一四一号（廿九日后）
日米関係改善方ニ付先般来新渡戸博士、樺山伯其他ノ意見ヲモ徴シ大体左記ノ如キ腹案ヲ得タル處之ニ関スル貴見御

回電相成度シ

記

一、方針　両国関係ノ改善ヲ念トスル日米有力者共同ノ運動トス
二、組織　米國内ニ於テハ紐育ニ中央委員会ヲ又二、三地方委員会ヲ設置シテ当該地方ニ於ケル啓発事業ノ指導助長ニ当ラシメ尚又中央委員会ヲシテ地方委員会ト聯絡シ全般的統制ニ当ラシム
日本側ニ於テハ東京ニ委員会ヲ置キ在米委員会ト協力セシム
差当リ紐育及ヒ東京ノ委員会ヲ組織シ其他ノ委員会ハ地方ノ事情ヲ斟酌シ漸次ニ設置スル事トス
三、事業　紐育日本商業会議所ニテ実行シ居レル諸事業（会合、講演、放送、出版物配布、新聞雑誌ヘノ寄稿等）ノ如キ一般的啓発事業ヲ促進、助長ス
四、経費　日米民間ノ寄附ニ依ル建前トシ原則トシテハ各地方毎ニ自給自足トスルモ不足分ハ中央委員会ヨリ補助ス
五、從来米國内各地ニ於テ行ヒツヽアル各啓発事業ハ必スシモ其全部ヲ本件委員会ノ統制範囲内ニ收ムルヲ必要トセズ各場合ノ事情ニ依リ之ヲ決スル事トス
本大臣ノ訓令トシテ在米各領事（「ホノルヽ」ヲ含ム）及（三字分欠）ヘ轉電アリ度シ

286　昭和8年6月(9)日　在ニュー・ヨーク堀内総領事より内田外務大臣宛（電報）

日米関係改善方策につき意見具申

ニュー・ヨーク　発
本　省　6月9日着

第一六九号
貴大臣発米宛電報第一四一号ニ関シ
日米関係改善方ニ付此ノ際政府ニ於テハ方針ヲ確立シ系統的施設ヲ行ハルルコトハ極メテ望マシキ處ナルカ問題ハ畢竟啓発事業ノ方法如何ニ帰着スヘシ而シテ等シク啓発ト云フモ当面ノ時局ニ関スル「パブリシティ」ト日本事情ニ関スル恒久的啓発トニ依リ自ラ其方法ヲ異ニスヘク貴電ノ御考案ハ右何レノ目的ノ爲ニモ米国現下ノ実情ニ適合セサルモノアルヤニ思量セラル
第一、日米関係改善ヲ目的トシ有力ナル米人ヲ加ヘテ協同

委員会ヲ組織スルコトハ少クトモ当方面ノ関スル限リ目下殆ト其見込ナシ現ニ一昨年ノ事変以来既存ノ「ジャパン・ソサイエティ」ノ如キモ會員中脱會スルモノ多ク一二ノ例外ヲ除キテハ公然立テ日本ノ為辯護スルモノナキ実状ニシテ斯ル空氣ハ將来漸次変化ヲ見ルヘキモ此ノ際有力ナル米人ヲシテ前記ノ運動ニ参加セシムルカ如キハ未タ其時機ニアラス現ニ本官ニ於テ夫レトナク二三親日家ノ意見ヲ徵シタルモ此点ハ何レモ一致シ居リ

第二、假ニ幾人カノ米人ヲ誘致シ得ルトスルモ所謂啓発事業ヲ標榜シテ何等カ運動ヲ起ストキハ自ラ世間ノ疑惑又ハ反感ヲ招キ所期ノ目的ヲ達シ得サルニ至ルヘク此ノ間ノ事情ハ例ヘハ排日移民法改正問題ニ関シ当地Federal Council of Churches of Christノ運動カ加州方面ニ却テ面白カラサル影響ヲ及ホシタル事実ニ鑑ミ之ヲ想像スルニ難カラス

第三、殊ニ斯ル共同委員会ヲシテ当面ノ時局問題ニ関シ「パブリシテイ」ヲ行ハシムルカ如キハ事ノ性質上極メテ不適当ト認メラル

第四、尚右事情ノ為此ノ際米人側ヨリ寄附ヲ求ムルカ如キハ殆ト不可能ナルコト事情ヲ異ニスル各地方委員会ノ間ニ聯絡統制ヲ計ルノ実際上至難ナルヘキコト等本案ニハ種々実行上ノ困難ヲ伴フヘシ然ラハ今日ノ実情ニ於テ如何ナル方法ニ依リ啓発ヲ行フコト最適当ナルヘキヤヲ考フルニ

(甲) 当面ノ時局ニ干スル「パブリシテイ」トシテハ所謂極東「ニューズ」ノ改善ト米国内事業ノ擴充トニ帰着スヘシ

第一、極東方面殊ニ東京、新京、北平及上海ヨリ米国ニ傳ヘラルル新聞情報ヲ一層正確詳細且有利ナラシムルコトヲ根本ト為スヘク而シテ之カ為ニハ右各地ノ我当局ニ於テ一層頻繁且積極的ニ外国通信員ニ情報ヲ供給スルハ勿論若シ経費上許スニ於テハ日本側ニout going newsヲ取扱フ有力ナル通信社ヲ設置スルカ又ハ既存ノ外国通信社トノ聯絡機関ヲ設ケテ一層有效ニ之ヲ利用スルノ必要アルヘシ少クトモ「ニューズ」ノ関スル限リ米国各新聞ハ現地ノ通信ヲ主タル「ソース」トナシ米国各地ニ於テ側面ヨリ之ヲ左右スルノ事実不可能ナルハ云フ迄モナシ

第二、前記現地「ニユウズ」ノ供給ト相俟チ米国各地ニ於テ我政府ノ公表其他ノ情報ヲ直接新聞雑誌ニ供給シ又論説記者其他トノ接觸ニ依リ指導ヲ與フルコトノ有益ナルハ勿論講演放送出版物配布等モ啓発上效果アルヘキ處之等ハ現

ニ在米各館ニ於テ相当有効ニ実行シツヽアリ今後益々擴充スルト共ニ各館ノ聯絡統制ヲ一層密ナラシムルヲ以テ足レリトスヘシ而シテ右事業ノ遂行ニ当リ「パブリシテイ」ニ長スル米人ヲ利用スルノ得策ナルハ本官ノ経験上痛感セル処ナリ

(乙) 右時局「パブリシテイ」ノ重要ナルハ勿論ナルモ今日ノ事態ニ於テハ日本事情ニ関スル恒久的啓発即チeducational campaignコソ我方ニ於テ最モ力ヲ注クヘキ處ナルヘシ此点ニ関シ先ツ念頭ニ置クヘキハ満洲事変以来一般米人ハ何トナク日本民族ハ矢張軍国主義ニシテ道徳観念ヲ異ニスルコト日本ハ世界平和ノ脅威ニシテ極東ニ於ケル米国ノ權益モ侵犯セラルル虞アルコト日本ハ早晩経済的ニ破産スヘキコト等ノ謬想ヲ懷キ居ルカ故ニ之ヲ是正スル為ニハ主トシテ経済及文化ノ二方面ヨリ啓発スルノ必要アリ

第一、経済的啓発トシテハ在米各館ニ於テ現ニ行ヒツヽアルモノノ外紐育日本人商業会議所ヲ將来益々利用スルヲ可トスヘク其ノ為ニハ將来機会ヲ見テ之ヲ日米人商業会議所トナスカ少クトモ米人ノ諮問委員會ヲ設クルト共ニ経済及「パブリシテイ」ノ智識経験アル日本人ノ有給幹部二、三名ヲ置クノ要アルヘシ（但シ右ハ直ニ実行シ難キ内情アリ）

第二、満洲カ今後如何ニ経済的発展ヲ見ルヘキヤハ現在米人実業家ノ注視スル處ナルニ鑑ミ彼等ニ安心ト希望トヲ與フルコトハ所謂「スチムソン、ドクトリン」ヲ実際方面ヨリ死文タラシムル捷径ト云フヘク此点ヨリシテ在満米国商社ニ相当取引上ノ機会ヲ與ヘ又米国製造家ニ纏リタル注文ヲ発シ又二、三ノ米人技師ヲ満洲国政府ニ傭聘スルカ如キハ最モ有效ナル宣傳トナリ（日本商人ノ手ニ依リ米国品輸入ノ増加タケニテハ米人ノ希望ヲ繋クニ足ラス）延ヒテハ米国資本ヲ誘致スル氣運ヲモ漸次釀生スルニ至ルヘシ

第三、文化啓発ニ関シテハ大体既存ノ米人側諸機関ヲ利用スルコト最モ有效ナルヘク例ヘハSociety of Japanese Study「コロンビヤ」大学図書館日本部American Council of Learned Societies, Institute of International Education等ト聯絡ヲ計リ (イ)交換教授 (ロ)講演 (ハ)邦文名著英訳書出版 (ニ)米人学生日本留学費補助等ヲ実行スルコト望マシク

第四、経費許スニ於テハ当地ニBritish Library of Information類似機関ヲ設ケ全米ニ対スル恒久的啓発ノ中心ト為スヲ可

トスヘク而シテ右ハ勿論英国同様外務省所属ノ機関ト為スコト各般ノ点ヨリ観テ便宜ナルヘシ（客年往電第六二号及拙信機密第一三一号参照）

米、在米各領事（「ホノルル」ヲ含ム）ヘ暗送セリ

287　昭和8年6月19日　内田外務大臣より湯浅宮内大臣宛

米国スクリップス・ハワード系新聞社主ロイ・ハワードの天皇への謁見願出について

付記一　六月十七日付、作成局課不明
「『ハワード』謁見ニ関スル米国大使館トノ了解ニ関スル件」

二　作成日、作成局課不明
吉澤書記官との会見におけるハワード談話摘要

三　作成日、作成局課不明
「謁見ニ關スル『ロイ・ハワード』ノ通信ニ關スル件」

人機密第二二一號

昭和八年六月十九日

外務大臣伯爵　内田　康哉

宮内大臣　湯浅　倉平殿

米國紳士「ハワード」謁見願ノ件

米国紳士「ロイ、ウイルソン、ハワード」今般本邦ヘ渡來致候ニ付敬意ヲ表センカ爲本邦駐劄同國特命全權大使ジョゼフ・シー・グルーニ從ヒ天皇陛下ヘ謁見仕度旨同大使ヨリ願出候間可然御取計相成度同人暑歴相添ヘ此段申進候也

（付記一）

「ハワード」謁見ニ関スル米国大使館トノ了解ニ関スル件

昭和八、六、一七日

六月十六日内田大臣米国大使館ネヴィル参事官ヲ招致シ左記ノ諸項ニ付異存ナクバ謁見方取計フベキ旨申述ベラレタリ

一、謁見ハ米国人貴顯トシテ許サルルモノニシテ新聞記者ニ対スル「インタービュー」ニ非ルコト

一、謁見ノ際「ハワード」ヨリ政治的論議ニ立入ラザルコト

一、新聞通信等ニ陛下ノ御言葉ヲ「クオート」セザルコト

一、何等カ謁見ニ関スル記事ヲ発表スル場合ニハ豫メ其ノ原稿ヲ内田大臣ニ内示シ其ノ承諾ヲ求ムルコト

米国大使館ハ右了承ノ上公文ヲ以テ「ハワード」ノ為メ謁見取計方ヲ依頼越セリ

（付記二）

昭和八年六月二十二日帝國「ホテル」ニ於テ吉澤「ハワード」氏ト會見（午后三時十五分ヨリ同四時十五分迄）ノ際ノ「ハワード」氏談話摘要

一、今般ノ來朝ハ松岡氏ノ勸説ニ因ルコト繰返シテ述ヘタル通ニシテ同氏ノ言説ニ傾聽シタル後今一度極東ノ狀勢ニ關スル認識ヲ更新スルノ必要ヲ痛感シタル次第ナルカ尚松岡氏ノ米國訪問カ日米關係ノ將來ニ對スル準備工作トシテ多大ノ效果ヲ收メタル所以ノ最大ノモノハ同氏カ極メテ大膽ニ爲シタル frank talk カ氏ニ接シタル米國人ニ甚大ナル好感ヲ與ヘタルコトニシテ此ノ事實ヲ看テ自分ハ日本人中ニモ徒ニ「ペルリ」以來ノ傳統的親善關係ト云フカ如キ御座ナリト御題目ヲ繰返スニ滿足セス眞ニ思フトコロヲ公言シテ憚ラサル人士ノ在ルコトヲ知リ得テ欣懷ニ不堪此ノ如クンハ自分カ日本ニ赴キテ卒直ニ豫テ懷抱スル意見ヲ披瀝スルニ於テハ必スヤ之ニ應シテ各方面ノ忌憚ナキ意中ヲ聽クヲ得ヘク現在ノ面白カラサル日米關係ノ好轉ニ付キ多少ノ貢獻ヲ爲シ得ヘシトノ確信ヲ抱クニ至リタルカ來朝ノ結果ハ果シテ此ノ確信ノ誤ラサリシヲ體得シテ喜悅ニ堪エサル次第ナリ

二、日米關係ヲ結ヒツケル要素ハ精神的物質的ノ兩方面ニ亘リテ多々存在スルモ其ノ最大ナルモノハ通商上ノ關係ニシテ將來ノ兩國關係改善ニ思ヲ致スモノハ此ノ事實ニ最モ重キヲ置カサルヘカラサルトコロ日本ニ於テ自分ト見解ヲ同シクスルモノ多キハ大ニ意ヲ强ウスル次第ニシテ此ノ如キ見解ヲ把持スル人士ニシテ日本ノ前途ノ指導ニ當ル限リ兩國關係ノ將來ハ多々憂フルニ足ラサルヘシ

三、滿洲問題ニ付テハ自分ハ從來ノ editorial policy ヲ變更シテ之ヲ過去ノコトトシテ取扱フ方針ナルカ滿洲國ノ前途ニ付テハ自分ノ接觸シタル限リ責任ノ地位ニ在ルモノハ日本ハ將來滿洲國ヲ併合スルコトハ夢想タニシ居ラサルコトヲ言明シ又自分ハ此ノ如ク確言スルモノノ bona

fideテ決シテ疑フモノニ非ルモ尚且自分トシテハ所詮ハ併合ハ免レサル成行ニシテ又此クナルコトカ極メテ自然ナリト考ヘ居レリ而シテ當分ノ間ニ治安ノ維持等ノ關係ヨリ日本ハ莫大ナル財政的負擔ヲ餘儀ナクセラルヘキモ之ヲ朝鮮ニ於ケル實績ニ徴スルニ今後何年間カノ後ニハ日本ハ滿洲ニ於テ今様ノ事績ヲ完成スヘキヲ疑ハス

而シテ滿洲ハ日本ノ移民問題ノ解決ニ直接貢獻シ得ヘシトハ考ヘス要スルニ日本ノ資本ヲ送リテ資源ヲ開發シテ内地ノ工業化ノ原料ヲ買ヒ製品ヲ賣ルト云フコトトナルヘシ

四、日本カ聯盟脱退後ノ東洋ニ於ケル平和機構ノ問題ニ關聯シ今ニシテ思ヘハ何故ニ華府會議當時ノ政治家ハ日本ノ如キ成長ノ道途ニ在ル國民ニ對シテ九國條約ノ如キ窮屈ナル制限ヲ課スルコトノ不道理ナルコトニ氣附カサリシヤ了解シ得サルコトナルカ是カ匡救策トシテハ一定ノ年限毎ニ事情ノ變更ヲ考量スルコトニアルヘク早胎(ママ)ンテ此ノ點ニ氣附キシナランニハ今回ノ滿洲事變モ避ケ得ラレタリシニ非ヤトモ感シ居レリ

註、此ノ點ニ付キテハ日本ニテモ同様ニ考フルモノアルモ之ヲ日本側ヨリ發議スルコトハ「デリケート」ナル問題ナリト言ヲ挿ミタルニ何等カノ交換條件ヲ附シテ「バーゲン」ノ問題トシテ言ヒ出スニ於テハ米國人ハ極メテ坦懐ニ傾聽スヘシト述ヘタリ

（付記三）

謁見ニ關スル「ロイ、ハワード」ノ通信ニ關スル件

米国「ユー・ピー」社取締役會長兼「スクリップス、ハワード」系新聞經營者「ロイ、ダブルユー、ハワード」氏ハ去ル六月二十二日天皇陛下ニ謁見仰付ケラレタリ右ハ米國名士トシテ謁見仰付ケラレタルモノニシテ新聞通信員ノ資格ニヨルモノニハ非ルモ米國新聞關係者ニシテ謁見ノ光榮ニ浴シタルハ氏ヲ以テ嚆矢トナス次第ニテ氏モ其破格ノ恩典ニ痛ク感激シ居リタリ

同氏ノ右謁見並ニ同日ニ於ケル内田大臣トノ「インタヴユー」ニ關スル長文ノ記事ハ「ユー・ピー」特電トシテ米國ニ電報セラレ六月二十二日、二十三日、二十四日ノ米國主要都市ニアル「ユー・ピー」系新聞特ニ「スクリップス、ハワード」系新聞ニ大々的ニ掲載セラレ大ニ各方面ノ注意ヲ喚起シタルモノト思考セラル（右記事全文並ニ譯文別添(省略)ノ通）

右記事ハ日米親善關係ノ增進ニ貢獻ヲ爲スモノトシテ米國内外各方面ニ於テ多大ノ好評ヲ博シタリ殊ニ六月二十四日倫敦發「ユー・ピー」通信ハ世界經濟會議ニ出席中ノ米國全權ニ於テモ謁見並ニ内田大臣トノ會見ノ際ニ表示セラレタル對米友誼ニ感激シ居ル旨ヲ報シ又下院外交委員長「マクレノールヅ」及世界經濟會議全權「モリソン」等モ日米通商關係ノ緊密ナルヲ指摘シテ兩國親善關係ヲ保持スルノ必要ナル所以ヲ力説セル趣ナリ

尚東京發「ユー・ピー」通信ハ日本新聞カ「ハワード」謁見記事ノ内外ニ及ホシタル反響ヲ報スルト共ニ日米親善論ヲ高調シ居ル旨ヲ傳ヘタリ

288

昭和8年7月8日　在サン・フランシスコ若杉(要)総領事より内田外務大臣宛(電報)

日米平和確保の観点からハワード系新聞社主が提議した日本人移民へのクオータ制適用を主眼とする移民法修正案について

サン・フランシスコ　7月8日後発
本　省　7月9日前着

第六三號

六日本邦ヨリ當地ニ歸着セル「スクリップス、ハワード」系新聞社主「ロイ、ハワード」ハ極東視察ノ結論トシテ大要左ノ如キ論文ヲ七日同系新聞「サンフランシスコ、ニユース」ニ發表セリ[1]

日本トノ平和ヲ確保シ、米國ノ軍備縮小ヲ希望スル純眞ナル動機ニ對スル日本國民ノ誤解ヲ一掃センカ爲ニハ米國海軍ヲ條約所定量ニ擴充スルヲ要ス武力ヲ以テスルニ非サレハ日本ヲ滿洲ヨリ追フコト能ハス支那ハ外國ノ力賴ムヘカラサルヲ覺リ武力充實ニ腐心シ日本ノ自由主義者亦華府及壽府ノ戰爭防止機關ノミニ依リ支那ノ領土行政保全ノ恢復ハ望ミ得スト爲シ居レリ之ニ依テ見レハ米國ノ戰爭防止ニ關スル努力ハ當分失敗ニテ少クトモ極東ニ關スル限リ國際紛爭解決ヲ武力ニ代フルニ條理ヲ以テセントスル米國ノ努力ハ實行不可能ナルコト明ナリ右太平洋ヲ挾ミテ日本ト相對スル米國ハ常識上何等カ實際的方策ヲ講スルヲ要ス今日米國ノ採ルヘキ途ハ日本ノ對滿政策ニ對シ今後モ依然トシテ無益ノ抗議ヲ續クヘキカ將又一國カ他國ニ比シ其ノ欲スル丈ケノ領土ヲ有セスシテ其國家的利害ト衝突スル場合他

國ノ理想ニ從フモノニアラサル事實ヲ承認スルカ二者何レカニ依ラサルヘカラス米國ハ世界ノ輿論カ更ニ今日以上ニ一致スルニ至ル迄ハ單ニ戰爭防止ノ理想ヲ唱導スルニ止メ之ヲ最後通牒ノ如クニ用フヘカラス

今[2]日米國政治家カ最モ考慮ヲ拂フヘキ國ハ日本ニシテ太平洋ノ平和ハ一ニ米國ノ政治的達見ノ有無ニ懸ル實ニ今日程日米關係危殆ニ瀕シ兩國ノ理解協調ヲ必要トスル時ナシ日本政府ハ全ク軍部ノ左右スル所ニシテ國民ノ大部分ハ之レヲ支持シ居レリ軍部ハ國民ヲシテ從來日本政治家カ國際會議ニ於テ瞞着セラレ日本國策遂行ヲ妨クルモノハ米國ナリト信セシメ居レリ日本國民ハ米國ハ婦人參政ノ結果平和主義ニ昵ミ稅金引下ケノ輿論ノ爲武力頽廢シ米國ノ唱導スル軍備縮小モ之レカ爲ナリトシ米國カ平和ノ爲ニスル努力ヲ理解セス但シ日米間ノ暗雲ハ根本的利害關係ニ基クモノニ非スシテ心理的ノモノニ過キス米國ハ日本ニ對シ敬意ヲ示スヘク移民法ヲ修正シテ歐洲諸國同樣ノ比率ヲ與ヘサルヘカラス而シテ太平洋ノ沿岸側ニ於テ先ツ其ノ運動ヲ起スヘシ滿洲ハ到底平和的ニ支那ニ返還セラルル事能ハサルニ付米國ハ宜ヒ(シカ)ク視察員ヲ送リ現實ニ卽セル對滿方針ヲ樹立スヘシ露國ノ承認ハ通商上ノミナラス極東平和均衡上必要ナリ右ハ我對滿方針ノ一轉機ヲ劃スヘシ極東ニ於テハ力ハ正義ナリ之レヲ破ルニハ實力ヲ備フルヲ要ス

在米各館ニ郵送セリ

289　昭和8年7月13日　在サン・フランシスコ若杉総領事より内田外務大臣宛(電報)

日本人移民にクオータ制を適用すべきとのハワード系新聞社説について

サン・フランシスコ　7月13日後発
本　省　7月14日後着

第六八號

「ハワード」ノ日米親善ノ爲移民法修正提議ニ關聯シ同系新聞「ニユース」ハ當方面有力者ノ修正贊成說鼓吹ニ努メ居ル處十一日同紙華府通信員ノ次期議會ニ於テ東洋移民「クオータ」法上程セラルヘク前下院移民委員長「アルバート、ジョンソン」及上院議員「ダビツド、リード」之ニ贊成ナリトノ報道ヲ揭載シ又左記要旨ノ社說ヲ揭ケタリ

日本ニ「クオータ」ヲ許スモ低賃銀勞働者輸入ノ結果ヲ生

ムモノニアラス無產勞働者ノ入國ハ公共ノ負擔トナル惧アリトノ理由ニ依テ領事查證ニ依リ之ヲ防止スルヲ得ヘシ排斥モ制限モ結果ニ於テハ同一ナルカ單ナル手段ノ相違ニ依リ兩國ノ感情ヲ激發シ戰爭ノ危險ヲ招クハ愚ナリ米國ハ戰爭挑發ニ應スルコトヲ辭セサルモ國民ハ不必要ニ友好國ノ感情ヲ刺戟シタル結果ニ對シ責任ヲ負フコトヲ好マス

在米各館ニ郵送セリ

290　昭和8年8月12日　在サン・フランシスコ若杉総領事より内田外務大臣宛(電報)

排日移民法修正に関する重光次官のステートメントと修正反対派の動静について

付　記　七月二十八日付
右重光次官のステートメントを伝えるUP記事

サン・フランシスコ　8月12日後発
本　省　8月13日前着

第七五號

十一日桑港「ニユース」社說ハ十日重光次官ヨリU、P、通信ニ與ヘラレタル「ステートメント」ヲ引用シ日本政府ニ於テモ移民法修正運動ニ現ハレタル友情ト「フエーア、プレー」ノ表現ヲ喜ヒ居ルコトヲ述ヘ米國ハ此際卒直ニ其過失ヲ認メ是正ノ法ヲ講ス可ク右ハ決シテ日本ニ膝ヲ屈スル所以ニ非スシテ友情ノ手ヲ差延フルニ過キスト論セリ

(欄外記入)右「スクリツプス、ハワード」系新聞及東洋關係協議會幹事Humeノ移民法修正運動ニ對シ加州合同移民委員會幹事「マクラツチー」ハ本月九日再ヒ反對運動ヲ開始ス可キコトヲ聲明シ「ヒユーム」ノ論旨反駁ノ長文ノ回章ヲ各方面ニ頒布シ居ル處「ハースト」系當地夕刊紙「コール、ブレテイン」ハ之ヲ支持シ十一日左記要旨ノ社說ヲ揭ケタリ

目下加州民ニ對シ移民法修正運動ノ宣傳行ハレ該宣傳ニシテ効ヲ奏セハ次期議會ニ日本移民ノ歩合入國許容案提出セラル可キ模樣ナリ然レ共加州民大多數ヲシテ日本人排斥ヲ以テ過失ナリトシ其修正ニ依リ国内又ハ國際的ニ何等カ利益ヲ得ルモノト思ハシムルハ困難ト謂ハンヨリ寧ロ不可能ナリ加州民ハ一九三五年ニ於ケル少數歩合カ一九四〇年ニハ多數歩合ト變シ遂ニハ無制限入國ニ變センコトヲ怖ル東洋關係協議會ハ修正贊成理由トシテ排斥法カ貿易ヲ阻害

スルコト並ニ該法修正ハ日米兩國間ノ友好感情ヲ招來スルモノト說クモ日本商人ハ利ノ有ル所ニ赴クモノニシテ排斥法ハ貿易ヲ阻害スルモノニ非ス又加州及米國ノ國内的重大利益ハ他國民ノ感情ヨリモ尊重セラル可キモノナリ犧牲ヲ忍ヒテ他人ノ意ヲ迎ヘテ贏チ得タル外面的友情ヨリ眞ノ國際友情生スルモノニ非ス排斥ハ侮辱ニ非スシテ相互人種カ有利ニ融合セサルカ爲ナリ若シ外國カ同樣米國民ノ入國ヲ排斥スルモ吾人ハ之ニ抗議シ又ハ侮辱ヲ感スルカ如キコト無カル可ク又外國内ニ排斥反對運動起スモ別ニ感謝ノ意ヲ表セサル可シ

大使各館ニ郵送セリ

（欄外記入）

次官ノインタヴュー発表シテハ如何

（付　記）

July 28th, 1933.

TOKYO, • • • • • (UP) ----------Satisfaction over renewed efforts in the United States to repeal the anti-Japanese provisions of the Immigration Act was officially expressed by Mr. Mamoru Shigemitsu, Vice-Minister of Foreign Affairs of Japan, on behalf of Count Uchida, Foreign Minister, as well as himself, in an exclusive interview with the United Press.

"It is most welcome news that a campaign has been inaugurated in the United States for the admission of Japanese immigrants under the quota system on equal footing with immigrants from other countries, and is receiving the support of an increasing number of Americans," said Mr. Shigemitsu.

"Once this problem of immigration is amicably disposed of, and Japan's legitimate stand in the Far East is fully appreciated in your country," he continued, "there will be nothing left that may possibly disturb the pacific and friendly relations between Japan and America, which we also are determined to cultivate to the utmost.

"The application of the quota system to Japanese immigrants, which would allow the entry of only a handful of our people, would cause no embarrassment to your country, while it would be hailed here in Japan as yet another expression of American friendship and fair play, because we feel the exclusion regulations at present in force are an affront to Japan's national honor.

"The proposed modification of the law seems, therefore, to be the most practical and mutually satisfactory way of solving the matter. I surely and sincerely hope that the campaign will succeed.

Mr. Shigemitsu said he believes that the removal of the immigration law irritation would go a long way to stop the naval rivalry between the two countries, that now threatens to break out again.

"If the friendly relations between our country and yours are fully restored, as is hoped," said the Vice-Minister, "there will be no need to enter into naval competition.

"Moreover, the trade relations on the Pacific, between Japan and the United States, have a great tendency to increase. If we have close intercourse in trade, it will promote immensely the amicable relations between these great powers of the Pacific.

"If the proposed change in the American immigration law, American recognition of Japan's legitimate stand in the Far East, and an increase in our commerce are realized, if the two nations work together, there can be no question to disturb the peace of the Pacific, and consequently the question of naval competition on that ocean may not arise."

291　昭和8年8月27日　在米国出淵大使より内田外務大臣宛（電報）

ロンドン国際経済会議におけるハル米国国務長官の立場および会議後の米国の動向などに関する大阪朝日特派員の内話について

ワシントン　8月27日後発
本　省　8月28日前着

第六八一號

國務長官「ハル」ノ知遇ヲ得米國代表部「プレス、オフイサー」トシテ倫敦經濟會議ヘ赴キ最近歸來セル「サーストン」（大阪朝日及費府「レコード」華府特派員）ノ加瀬ニ内話セル要領何等御參考迄左ノ通リ

一、經濟會議ハ此ノ種大會議トシテチヨツト類例ノ無キ程ノ失敗ナルカ近キ將來ニ於テハ再開ノ望ミナカルヘシ實ハ「ハル」ハ倫敦ヘ赴ク船中ニテ大統領カ互惠關稅協定締結ノ權限ヲ議會ヘ求メサル事ニ決シタル旨ノ報ニ接シ非常ニ失望シ居リタルカ夫レヤ是レヤニテ倫敦ニ於ケル同人ノ立場ハ苦シカリシ樣ナリ「モーレイ」カ出カケテ來タ等モ余計ナ事ノ樣ニ思ハル「ハル」ト云フ人ハ中々「リベラル」ナ考ヘノ持主ナルト共ニ一度斯ウト思ヒ込ムト何處迄モ遣リ通サウトスル處アリ今尚互惠協定ニ依リ關稅障壁ノ撤廢ヲ爲ササレハ世界經濟ノ囘復ハ望ミ難シトスル信念ヲ棄テス來ル十二月「モンテヴイデオ」ニ開催ノ「ラテン、アメリカ」會議ニハ多分自身出馬シ其ノ信念ニ從テ努力スル事トナラン

是[2]ハ自分ノ感シナルカ經濟會議後ノ米國ハ對南米及極東關係ニ重キヲ置クニ至レル樣見受ケラレ旁々日米關係ヨリスルモ「フエーバラブル」ナ機運ニ在リト云ヒ得ヘシ

二、「ハル」トハ極東時局ニ付談話ヲ爲ス機會アリタルカ徒ラニ日本ノ人心ヲ昂奮セシムルニ過キサル樣ナ「ヂエスチユアー」ヲスルハ米國ニ執リ第三位ノ顧客タル日本ヲ向フニ廻ス事トナリ得ル處ナシトスル自分ノ考ヘヲ能ク叩キ込ミ置キタル積リナリ實ノ處「ハル」モ此ノ際日米關係ヲ出來得ル限リ靜カニシ置キ度シト考ヘ居ル樣感セラレタリ

三、蘇聯邦承認問題ハ倫敦ニテ大体瀬踏ミヲ畢リタル形ナルカ米國政府ニ於テ正式承認ノ意響ヲ有スル事ハ疑無ク其ノ方法ハ大使ノ任命ヲ行ヒ上院ニテハ事後承諾ヲ求ムレハ足リ至極簡單ニテ大統領其ノ他ノ最高幹部ニ於テ今後適當ト認ムル頃ニ實行セラルヘク或ハ相當近キ將來ノ事カト思ハル（本電「サ」ノ談話ハ一切極秘扱トセラルル樣致度シ）

292
昭和8年8月29日　在米国出淵大使より内田外務大臣宛（電報）

モーレー国務次官補辞任の背景について

ワシントン　8月29日前発
本　省　8月30日前着

第六八二號

二十七日紐育州「ハイドパーク」大統領邸ヨリ發表セラレタル所ニ依レハ「モーレイ」ハ九月七日限リ國務次官補ヲ辭職スルコトトナリタルカ同人ハ近ク「ヴインセント、アスター」カ發刊者タルヘキ週刊雜誌ノ主筆トナリテ大統領ヲ支持スル筈ナリ何分大統領選擧戰當時ヨリ帷幄ニ參シ民主黨政權掌握後モ所謂「ブレイン、トラスト」ノ第一人者トシテ重キヲ置カレタル「モ」ノコトトテ同人ノ引退ハ種々ノ噂ヲ生シ居レルカ諸般ノ情報ヲ綜合スルニ從來「モ」ハ一國務次官補乍ラ大統領トノ特別ノ關係ニ依リ政府部内ニ於テ重キヲ爲シ加フルニ經濟問題等ニテ「ハル」長官ト相當見解ヲ異ニシ爲ニ倫敦經濟會議中ニモ種々工合惡キコト生シタルハ國務長官カ新聞等ニ打消シ居レルニ拘ラス專ラ取沙汰セラレ居リ現ニ「ハル」倫敦ヨリ歸來以來「モ」カ國務省ノ仕事ヲ離レ居リタルハ事實ニテ今囘ノ辭任ハ其ノ頃ヨリ既ニ定マレルコトナリト言ハレ要ハ政府部内ノ人事ノ一移動ニ過キスシテ「モ」ノ辭任ニ伴ヒ内外ニ對スル大統領ノ政策、國務省ノ態度等ニ何等特殊ノ變化ナキ儀ト察セラルルモ種々ノ流説喧傳セラレ居ルニ付爲念電報ス

293
昭和8年9月12日　在シアトル内山（清）領事より内田外務大臣宛（電報）

移民法修正問題に関するシアトル商議理事会の対応につき同会理事よりの内話について

シアトル　9月12日後発
本　省　9月13日後着

第七二號

往電第六四號ニ關シ

當地商議理事會ハ十二日午後開催セラレタルカ之ヨリ先在桑港「アレキサンダー」ヨリ理事ノ一人タル「スパングラー」ニ宛「シヤトル」商議ノ態度如何ハ本運動ニ重大ノ關係アルニ付右理事會ニ於テ全決議ヲ「リアツフアーム」スル樣努力セラレ度旨電報シ來レリ依テ「ス」ハ「ミドルトン」其ノ他關係者ノ意見ヲモ篤ト聽取シ愼重考慮ヲ加ヘタルカ現在復興運動等ニ關聯シ民心混亂ノ中ニアリテ既電ノ通當

市ニ於テハ修正反對說續出宣傳セラレ居ル際既ニ一九三〇年末修正說ノ態度ヲ明カニシタル商議理事會カ再ヒ之ヲ確認セントノ動議ヲ提出センカ理事會顏觸及氣分モ先年ト大イニ趣ヲ異ニスル今日ニ於テハ假令修正反對說出テサル迄モ兎ヤ角ト種々質問論議ヲ惹起シ幸ニ修正贊成者多數ナリトスルモ結局ハ往年ノ態度ヲ保持シ得ルニ止マリ右協議ヲ爲スコト夫レ自身相當ノ危險ヲ踏マサルヘカラス況ンヤ理事會カ運動ヲ再ヒ確認セリトノ決議ハ數日來稍下火トナリツツアルカニ見ユル反對側ノ氣勢ヲ煽リ事態ヲ惡化シ延イテハ桑港商議理事會ノ決議ハ商議員全部ニ於ケル意見ヲ代表スルモノニ非スト「ハースト」紙電報ノ宣傳シ居ルカ如キ非難ヲ當地ニテモ釀成スヘク斯クテ折角其ノ儘トナリ居ル一九三〇年末ノ決議ニ關シテモ最モ好マシカラサル時機ニ由無キ物議ヲ惹起スルノ虞アリ旁々復興運動成功ノ見極メ付キ景氣ノ回復ヲ見人心平靜ニ歸スル迄ハ極メテ機微ノ立場ニアル商議トシテハ寧ロ本問題ヲ理事會ノ討議ニ上程セサル方得策ナリト認メ「ス」ニ於テ商議書記長ニ指示シ少クトモ本日ノ理事會ニハ本問題ヲ討議セサルコトニ取計ヒタル旨本官限リノ含トシテ「ス」ヨリ内話アリタリ

尙「ス」個人トシテ依然修正說ノ態度ヲ變更セス萬一今商議理事中ニ於テ反對說ヲ爲ス者アル場合ハ之ヲ說破スルニ躊躇セサルヘキモ約六ケ月前ニ比シ幾分緩和セラレタリトハ云ヘ失業狀況ノ最惡ナル現在ノ時機ヲ捕ヘ前以テ當方面ト打合ハセルコト無ク突然桑港商議カ本問題ヲ提起シタルハ意外トシ居ルモノノ如シ尤モ當地商議カ本問題ヲ再討議セサルコトハ依然一九三〇年末ノ贊成決議ヲ其ノ儘存續セシメ置カントスル建前ニアルモノト觀察セラル

之ヲ要スルニ當事者トシテハ往電第六四號及本電ノ理由以外成功ノ見極メモ充分付キ兼ヌル本運動ニ今日深入リシ徒ラニ「ハースト」紙ノ宣傳ニ基ク民衆非難ノ的トナルヲ甘受スル丈ノ勇氣モ無ク其ノ裏面ニハ最近小麥、木材ト共ニ日本ヨリモ支那ヲ主タル顧客トシ漁業ノ如キハ却テ本邦製品ノ脅威ヲ受ケ居ル有樣ニテ自然經濟上對日感情モ日支事件ト相待チ昔（日）ノ如クナラス旁々商議ハ本運動ニ關シ往年ノ如キ熱心ヲ有セサルモノト思考セラル

在米大使ヘ轉電シ在米各領事ヘ暗送セリ

294　昭和8年10月20日　在サン・フランシスコ若杉総領事より広田外務大臣宛（電報）

西部諸州商業会議所連合大会における決議を経て来るべき連邦議会に移民法修正案を提議したいとの修正推進派意向について

サン・フランシスコ　10月20日後発
本　省　10月21日後着

第一〇四號

當地「アレキサンダー」ヲ中心トシテ數年來不斷ノ努力ヲ續ケ來レル移民法修正運動ハ最近「スクリツプス、ハワード」新聞ノ同修正提議以來「ア」ノ運動機關タル東洋關係評議會主事「ヒユーム」ノ運動ト相俟チテ著シク修正論ニ氣勢ヲ添ヘタルニ對シ排日移民法制定運動ノ首領タル「マクラツチー」ノ修正反對運動ト「ハースト」新聞カ新聞政策上「ハーワード」新聞ニ對抗シテ「マ」ノ反對運動ニ合流セル爲目下贊否略相半ハシ修正運動ノ前途容易ニ樂觀ヲ許ササル狀勢ナル次第ハ屢次報告ニ依リ御承知ノ通ナル處本日「ア」來訪内話スル處ニ依レハ修正運動相當功ヲ奏シ又「マ」ノ活（動）モ老年ノ爲稍衰ヘ居ルモ尙反對論者尠カラス殊ニ在鄕軍人團及勞働聯盟側ノ態度未タ正確ニ判明セサルヲ以テ急速ニ議會ノ問題トスル迄ニ至ラサルモ近々自分知合ノ筋ヲ通シ本問題ニ對シ「ルーズヴエルト」大統領ノ態度ヲ突止メタル上若シ行政部ニ於テ修正運動ヲ支持スルノ誠意アル場合ニハ本年十二月「サクラメント」ニ於ケル西部諸州商業會議所ノ聯合大會（太平洋岸諸州及「コロラド」州迄ノ西中部諸州ヲ含ム）ニ於テ移民法修正決議案ヲ可決セシメ來ル可キ議會ニ提案ノ運ヒ迄ニ漕着クル考ナルモ若シ行政部ニ於テ内政問題ニ忙シキ此ノ際トテ修正ニ氣乘リセサル場合ニハ右大會ニモ決議ヲ見合セ當分專ラ打開運動ヲ繼續スルニ止メ更ニ好機會ヲ待ツ外ナシト語レリ何等御參考迄

尙申上クル迄モナキ儀乍ラ右ハ外間ニ洩レサル樣御含ヲ請フ

米ヘ轉電シ、在米各領事（「ホノルル」ヲ含ム）ヘ暗送セリ

295　昭和8年10月23日　在ニュー・ヨーク堀内総領事より広田外務大臣宛（電報）

滞米中の見聞に基づく米国政況および日米関係改善方策などに関する白鳥公使報告について

ニュー・ヨーク　10月23日後発
本　　省　10月24日前着

第二四一號

白鳥公使ヨリ[1]

滯米中ノ見聞ニ基ク卑見何等御參考迄

一、當國ニ於テハ目下國ヲ擧ケテ復興ニ沒頭シ他ヲ顧ミルノ暇ナキ有樣ニシテ復興施設ノ主ナルモノハ

第一ハ農村負債ノ輕減及生產制限ノ二方法ニ依ル農村救濟

第二ハ勞働時間ノ短縮ト最低賃銀ノ上昇ニ依ル勞働者救濟

第三ハ三十三億弗ノ豫算ヲ以テスル土木事業ノ奬勵

ニシテ何レモ民衆ノ購買力回復ヲ目的トスルモノナルカ其ノ效果ニ付テハ一般ニ頗ル疑問視シ政府當局ニ於テモ確信ナキモノノ如ク既ニ產業統制案（N、R、A）ニ付テハ資本勞働双方ヨリ相當反對アリテ地方ニ依リテハ暴動ヲスラ誘發シツツアリ識者ノ間ニハ米國ノ不況現下ノ深刻ヲ來セルハ一ニ組織ノ缺陷ニ基クモノナル處政府ノ施設ハ何レモ現行組織ノ繼續ヲ前提トシ之カ擁護ヲ目的トスルモノナルカ故ニ所詮失敗ノ運命ニアリ結局スル所統制經濟乃至一歩ヲ進メテ國家資本主義ニ至ラサレハ根本的救濟ハ期シ難シトノ意見可ナリ有力ナルモノノ如シ尤モ政府大童ノ奮鬪ハ部分的ニハ多少其ノ效果ヲ現ハシ殊ニ三十三億弗ノ復興資金ハ未タ殆ト手ヲ着ケ居ラサル處之カ民間ニ行渡ル曉ハ一時景氣ヲ煽ルヘキハ明カニシテ政府ハ問題ノ多キN、R、A等ニ餘リ熱中セス主トシテ「パブリック、ワークス」ニ全力ヲ注クヘシトノ議論多キ所以ナリ

要スルニ當國復興ノ前途ハ暗澹トシテ見据付カス之カ人心ニ及ホス影響モ寒心スヘキモノアリ茲數年ハ「アメリカニズム」ニ取リ實ニ未曾有ノ試練期間ト見ラレツツアリ

二、[2]斯クノ如キ重大ナル難局ニ直面シ多年繁榮ニ慣レタル當國上下ハ策ノ施ス所ヲ知ラス苟モ復興ト爲（ノカ）トアレハ藁ヲモ摑マントスルノ狀アリ十六年間頑强ニ持續シ來リタル蘇聯邦不承認ノ主義ヲ卒然トシテ放棄セントスルニ對シ何人モ反對ヲ唱ヘス又過般ノ海軍豫算カ何等問題ナク通過セルハ孰レモ景氣回復ノ一助ト見ルカ爲ニシテ爾餘ノ理由ハ附隨的考慮ニ過キスト認メラル今後モ當國ノ內外國策ハ當分ハ主トシテ此ノ國民心理ニ支配セラルヘク對米ノ關係ニ於テハ常ニ右事情ニ留意スル事肝要ト存ス例ヘハ海軍軍備ノ問題ノ如キ政府ハ三十三億弗ノ使途ニ困リ居ル有樣ナレハ口實サヘ與フレハ何程ノ支出ヲモ厭ハサルヘク景氣回復ノ最モ有效ナル方便ハ政府ヲシテ金ニ糸目ヲ附ケス浪費セシムルニアリトサヘ考ヘ居ル當國ノ現狀ハ軍備擴張ニ最モ都合良キ條件ヲ備ヘ居ル次第ナリ素ヨリ政府ノ財源ハ結局人民ノ懷ニ求ムルノ外ナク深刻ナル不況ニ惱ミ居ル納稅者カ無際限ニ政府ノ濫費ヲ許スノ理ナキハ明カニシテ各般ノ復興施設モ其ノ效果捗々シカラサルノ狀勢顯著トナルニ及ンテ必ス反動來ルヘキモ少クトモ目前ハ前述ノ事情ナルヲ以テ我方トシテハ當方（分カ）ノ間海軍問題等ニ付テハ餘リ聲ヲ大ニセサル方得策ト信スル次第ナリ

三、[3]日本ニ對スル當國ノ感情ハ表面ハ案外不良ナラス新聞等モ一部常習者ヲ除キテハ我ニ惡聲ヲ放ツモノ少キ模樣ナルカ之ヲ以テ日支問題ニ付當國一般カ帝國ノ公正ナル立場ヲ認メタリト爲スハ勿論大早計ニシテ內心ハ依然帝國ノ眞意ヲ誤解シ滿洲問題ノ如キスラ他日適當ノ機會來ラハ再吟味ヲ要ストノ念慮ヲ拋棄セスト認メラル政府當局トシテハ就任以來未タ曾テ日支問題ニ付何等其ノ態度ヲ窺ハシムヘキ言動無ク過般經濟全權通過ノ際ノ大統領ノ言辭ノ如キハ見樣ニ依リテハ一片ノ御世辭ト取ラレサルニアラス國民一般ノ感情前述ノ如クナルニ加ヘ國務省ノ要路ハ支那贔負ヲ以テ埋メ居ル現狀ニ於テ我方カ表玄關ヨリ日米親善ニ關スル何等了解ヲ取結ハントスルモ極メテ困難ニシテ寧ロ未タ其ノ時期ニアラサルヤヲ思ハシム支那問題ニ觸レスシテ日米親善ト云フモ例ヘハ海軍軍備ノ問題ハ前述ノ如ク今日ハ談合ニ不利ナル狀勢ニアルノミナラス對支政策ニ關スル了解無クシテ軍備ノ問題ヲ議スルモ徹底セサルヘシ左レハトテ何等ノ內容ヲ含マサル日米了解例ヘハ一部ニ稱ヘラルル日米不戰條約ト云フカ如キモノハ精神的效果ハ大ナルヘキモ斯ル條約ハ兩國間ニ特殊親善關係既ニ存シ政策ニ關シテモ完全ナル了解アルカ然ラサレハ兩國間ノ空氣極メテ險惡ニシテ戰爭ノ危

險現實ニ存スルカ二者何レカノ場合ナラサルヘカラス然ルニ現下ノ日米關係ハ何レニモアラス斯ル條約締結ノ辭柄存セサル次第ニシテ要スルニ現狀ニ於テハ我方ヨリ正式ニ何等働キ懸クヘキ餘地乏シキ儀ニシテ强ヒテ之ヲ行ヘハ事ノ成ラサル場合ノ反動ハ却テ有害ナルヘシト思考ス

四、[4]卑見ヲ以テスレハ日米關係ヲ好轉セシムルカ爲ニハ日支關係ノ調節ヲ以テ最大急務トシ同時ニ米國民ノ教育ニ全力ヲ注クヲ要ス日支關係現狀ノ儘ニテハ米國政府トシテハ義理ニモ日本ニ對シ愛想ヲ示シ得サル次第ナルカ之ニ反シテ日支親善實現シ御本人タル支那人カ滿足ヲ表スルニ於テハ米國ニ於ケル支那贔負ノ連中ハ全ク立場ヲ失ヒ政府トシテモ最早日本ヲ責ムヘキ理由モ必要モ無カルヘク其ノ際コソハ日米親善ヲ基調トスル我方ノ啓發運動カ百「パーセント」ノ效果ヲ擧ヘ得ヘシ

日支親善ト一口ニ言フモ實現ノ困難ナルハ申ス迄モ無ク政府ニ於カレテモ折角御苦心ノコトト推察スル次第ナルカ現在ノ狀勢ニ於テハ當分ノ間歐米ハ支那問題ニ携ハルノ餘裕無ク他方上海及北支ニ於ケル經驗カ支那人ノ蒙ヲ啓キタル今日ハ或意味ニ於テハ絶好ノ機會ニシテ而モ茲二年以内ニ帝國ノ對外關係ヲ調整スルノ要ニ迫ラレ其ノ端緒ハ日支ノ親善ニアリトスレハ此ノ際ハ如何ナル手段ヲ用ヒテモ一日モ早ク支那トノ關係ヲ少クトモ（五字分欠）ナラシムルコト必要ニシテ徒ニ靜觀ヲ事トスヘキ時期ニ非スト存ス

五、當國ノ對日輿論カ鎭靜ニ向ヒツツアルハ事實ニシテ今日トナリテハ方法ヲ以テ說（一字分欠）ハ兎モ角モ耳ヲ傾クルノ程度ニハ達シ居ルヲ以テ我方ニシテ大規模ノ啓發運動ヲ開始スヘキ機運熟シタリト申スヘク之カ方法トシテハ在米諸官ニ於カレテモ種々研究セラレ居ル模樣ナルカ何レノ途相當多額ノ資金ヲ必要トスルヲ以テ此ノ際本省ニ於テ不取敢一千萬圓程度ノ啓發費ヲ臨時要求セラレテハ如何ト存ス以上甚タ杜撰乍ラ出發ノ際貴大臣ノ御言葉モアリ（一字分欠）越ヲ顧ミス具申ス

米ヘ暗送セリ

296 昭和8年12月10日　在米国武富（敏彦）臨時代理大使より広田外務大臣宛（電報）

米国紙社主よりの日米関係に関する大統領との会談内容内話について

ワシントン　12月10日後発
本　省　12月11日前着

第八六三號（極秘、館長符號扱）

[1]「アトランタ、コンスチチユーション」紙社主「クラーク、ハウエル」ハ數年來同新聞ニ於テ頻リニ我國ニ對スル好意好感ヲ高潮シ殊ニ滿洲事變以來ハ終始一貫シテ「スチムソン」ノ對日政策ニ反對シ其滿洲國不承認ノ方針ヲ攻擊シ來リ最近ニハ日米間不侵略條約ノ如キモノヲ締結シテ「スチムソン、ドクトリン」ノ清算ヲナシ日米國交ノ建直ヲナス要アリト熱心ニ主張シ居レル人物ナルカ同人ハ從來親交アル河上ニ對シテモ常ニ右ノ持論ヲ寄セ居リタル處去ル五日同人ヨリ河上ニ對シ自分ハ大統領カ「アトランタ」ニ近キ「ウオームスプリングス」ニ休養中ノ機會ヲ利用シ日米關係ニ付會談シタルモ自分ハ大統領ノ所見ヲ「クヲート」スル自由ヲ有セストテ會見ヲ求メ來リタルニ付河上同地ニ赴キ同人ト大統領トノ會談ノ内容ヲ聽取シタリ右ニ依レハ同人ハ大統領カ歸華ノ途次「アトランタ」迄ノ汽車中ニ於テ別人ヲ交ヘス日米關係ニ關シ約一時間半ニ亘リ會談シタル趣ナルカ

一、同人ヨリ平素ノ持論タル不承認主義反對論ヲ持出シ米國トシテハ此ノ際前政府以來ノ傳統等ニ拘泥セス大統領自ラ日米兩國ノ爲新シキ途ヲ開ク要ナキカト切出シタルニ對シ大統領ハ全然同感ノ意ヲ表シ自分ハ「スチムソン」ノ外交政策ニハ反對ナリ百害ハアリテモ一利モナシ滿洲ノコトハ忘レテ日米國交ノ建直ヲ計ルノ必要ハ認居レト日本ノ非常時氣分ハ左樣ナ相談ニハ容易ニ乘リ來ラサルヘシトノ意味ヲ答ヘ更ニ

二、[2]大統領ハ同人ニ對シ米國トシテハ日米間ノ親交ヲ第一義トスルハ勿論ナルカ同時ニ日露ノ國交モ改善サルルコトヲ希望スルモノナリト述ヘタル後過日「リトヴイノフ」トモ會談ノ際自分ハ同樣ノ希望ヲ彼ニ話シタルニ「リ」ハ席ヲ立ツテ自分ノ手ヲ握リ「余ハ閣下ノ御盡力ヲ以テ日米露三國間ニ不可侵條約ノ成立センコトヲ熱望ス」ト言ヒタルヲ以テ自分ハ彼ニ對シ自分トシテハ世界ノ平和ヲ最モ希望スルモノニシテ單ニ日米間ノ平和ノミナラス日露ノ間ニ不可侵條約ノ成立スルコトハ世界ノ平和ヲ增進スル一大動機ナ

リト信スト酬ヒタルニ彼ハ「余ノ恐ルル所ハ滿洲ニ非ス日本カ北滿州ヲ踏臺トシテ黑龍江ノ北岸ニ進出シ沿海州及北樺太ヲ併合セントスルコトナリ」ト述ヘ居タリト漏ラシ

三、又同人ヨリ米國トシテハ滿洲ニ於ケル日本ノ行動ヲ妨害スル要ナク寧ロ前政府ノ採レル政策ノ如キハ之ヲ放棄スル要アルヘシト說キタルニ對シ大統領ハ日本ニ沿海州方面ニ軍事行動ヲ起ス等ノ野心ナク滿洲丈ケニテ滿足スル樣ナラハ問題ハ簡單ナリ日本カ沿海州方面ニ望ナシトセハ米國トシテハ安心シテ可ナリ滿洲ニ關スル前政府ノ政策ハ贊成シ難シ既ニ出來上ツタ滿洲國ヲ承認セス等ト融通ノ利カヌ事ヲ言フテモ最早致方ナシトノ意味ヲ力說シタル由

(3)尙同人カ大統領ト會談後ノ自己ノ印象トシテ河上ニ語リタル處大要左ノ通

一、大統領ハ生溫キ事ハ嫌ナ性格ニテ相當大膽ナル人ナルヲ以テ眞ニ同人ノ所說ニ共鳴ストセハ結局滿洲國ヲ承認スル積リダト見テ可ナルベシ自分ノ見ル所ニテハ日本ガ今後適當ノ時機ヲ選ビテ米國ト交涉ヲ開始シタナラバ大統領ハ或ハ案外簡單ニ滿洲ヲ承認スルカモ知レズ但シ會談後ノ印象ニ依リ言ヘバ何程大膽ナ「ルーズベルト」氏ト雖モ直截簡明ニ滿洲國承認等云フガ如キ言葉ヲ用ユル事ハ此ノ際出來ザルヘキヲ以テ事實上承認シタト解釋サレ得ル樣ナ形式ヲ採ル事ヲ考フルモノカト思ハル尤モ大統領トシテハ何ト言ツテモ（脫？）其ノ平和政策ノ一部ニ過キサルヲ以テ日本トノ交涉中日本ガ露國トモ不可侵條約ヲ締結シ支那モ滿洲ヲ諦メタ上ハ之ト不可侵條約ヲ作ルナリシテ平和政策ヲ實行セン事ヲ條件ト迄ハセヌトシテモ相當强ク且ツ熱心ニ希望スル事ハ有リ得ルト考ヘラル夫レハ兎ニ角トシ所謂「スチムソン、ドクトリン」ガ孰レ大統領ノ手デ殺サレル運命ニアル事ハ大統領ノ口吻ニテ察セラレタリ云々

(4)二、大統領ハ天才的ノ性格故遣ルト決心セバ實行スルモ絕好ノ潮時ヲ選ブヲ常トス且ツ實行スル迄ハ絕對秘密ヲ守リ靑天ノ霹靂ノ如クニ發表スルヲ信條ト爲シ居レリ其ノ爲ニハ時ニ從來ノ先例等ヲ顧ミザル事アルハ就任以來ノ出來事テモ明カナルヘシ之ヲ相手トスルモノハ充分是等ノ點ニ着目シテ可ナルベシ云々

前記後段ハ Howell ノ印象談ニ過キサルモ前段ハ同人カ大統領トノ會談ノ內容トテ河上ニ語リタルモノニシテ時節柄何等御參考迄ニ電報スル次第ナルカ Howell ハ御承知ノ通

リ地方新聞トシテ全米ニ知ラレタル「コンステイテユーション」ノ過去五十年ニ亘ル主宰者タルト共ニ南部ニ於ケル民主黨ノ重鎭トシテ嘗テハ州議會ノ上院議長タリシ事アリ三十二年前ヨリ今日迄引續キ民主黨內幹部ノ一人（「デモクラテイツク、ナショナル、コムミツテイーマン」）ニテ大統領トハ懇親ノ間柄ナル爲大統領モ相當氣ヲ許シテ應酬シタルモノヲ同人カ多年ノ親交アル河上ニ內話シタルモノト認メラルルニ付本電ノ內容ハ万一直接ニモ間接ニモ外部ニ洩ルルカ如キ事アリテハ孰レモ非常ナル迷惑ヲ受クルノミナラス今後ノ爲ニモ甚ダ望マシカラサル事態ヲ生スル惧アルニ付本電ハ嚴重ニ極秘扱トセラルル樣致度シ申上クル迄モナキ事ナカラ爲念申添フ

本電ハ出淵大使出發後ノ事ナルニ依リ同大使ニハ特ニ供覽セラルル樣致度シ

297　昭和8年12月11日　在サン・フランシスコ富井(周)總領事より広田外務大臣宛

西部諸州商業会議所大会における移民法修正問題の討議状況および修正賛成派の動向について

機密第二八七號　（昭和9年1月9日接受）

昭和八年十二月十一日　在桑港　總領事　富井　周〔印〕

外務大臣　廣田　弘毅殿

西部諸州商業會議所大會ニ於ケル移民法修正問題討議ニ關スル件

本月二日ヨリ六日迄加州**サクラメント**ニ於テ開催セラレタル西部諸州商業會議所（Western Division of the United States Chamber of Commerce）本年度年會ニ於テハ豫テヨリ移民法修正贊成ヲ決議セル沿岸各地商業會議所ノ希望モアリ修正問題モ議案ノ一ニ加ヘラレ五日羅府商業会議所理事**アドルフ、シユライシヤー**ヲ議長トシテ一般討議ニ附セラレ加州東洋關係協議會幹事**サミユエル、ヒユーム**ヲシテ東洋人歩合移民入國許容論ヲ述ヘシメタルカ桑港**コンモンウエルス**倶樂部移民部會長**フオーク**カ本年五月一日附往信第一〇四號報告ノ同倶樂部票決ノ結果ヲ楯ニ猛烈ナル反對論ヲ爲シ結局移民法修正贊成ノ票決ヲ採ルニ到ラスシテ閉會セリ

客年來アレキサンダーヨリ内密ノ資金補助ヲ得テ修正運動ニ奔走セル加州東洋關係協議會幹事ヒユームハ本年夏ローイ、ハワード歸米後スクリツプス、ハワード系當地新聞桑港ニユースト相呼應シテ一層ノ努力ヲ續ケ本年八月後ハ毎月一回同協議會ブレテインヲ發行シテ各方面有識者ノ修正贊成意見ヲ掲ケ普ク之ヲ各方面ニ頒布シ加州在鄕軍人團機關紙レヂヨンドネアニ修正運動ニ關スル廣告ヲ爲シ軍人團其他ノ愛國的團体並ニキワニス、ライオン、ロータリ等ノ倶樂部ニ遊説シテ各地有力者ノ贊成援助ヲ獲得セルモマクラツチー及ハースト系新聞之ニ對抗シテ反對宣傳ヲ怠ラスヒユームカ實業家及學者方面ヲ味方トセルニ反シマクラツチー派ハ俗耳ニ入リ易キ東洋移民殺倒論ヲ以テ政治家及大衆ノ修正運動ニ傾クヲ戒メタル爲愛國的團体並勞働團体ニ於テ何等具体的ニ修正運動ニ有利ナル形勢ヲ馴致スルニ到ラス加フルニ經濟復興失業救濟ノ大問題ヲ控フル當今移民法修正ヲ論スルノ時機ニ非ストスル印象一般ニ深キ爲折角ヒユームノ熱心モ所期ノ成果ヲ擧クルニ足ラサリシヤノ感アリ（二字分アキ）當方面ノ空氣既ニ如斯ヲ以テニユースモ移民法修正論ヲ云爲セサルニ到リアレキサンダー一派モ此際無理押ニ修正案ヲ米國議會ニ上程スルモ大統領ノ援助ナキ限リ見込ナク而モ政治的ニ見テ移民法修正案論議ノ時機ニ非サルコトヲ覺リ之カ議會提出運動モ斷念シ今回ノ西部諸州商業會議所大會ニ於テモ行懸リ上單ニ討議ニ止メテ修正贊成決議案ニ到ラサリシ次第ニテ加州東洋關係協議會ノ活動モ今後當分時局ヲ靜觀シ徐ロニ空氣ノ好轉ヲ待ツ方針ナリト云フ尙ホ本件ニ關シテハ目下不在中ノアレキサンダーカ當地ニ歸來スルヲ待テ會談ノ上結果重テ申進スルモ右不取敢御參考迄報告ス

本信寫送付先　在米大使、在米各總領事及領事

298

昭和8年12月12日　在米国武富臨時代理大使より広田外務大臣宛

移民法修正問題に関する同法修正反対派カリフォルニア州労働連盟書記長の内話について

機密公第五一〇號　（昭和9年1月8日接受）

昭和八年十二月十二日

在　米

臨時代理大使　武富　敏彦〔印〕

外務大臣　廣田　弘毅殿

昭和八年十二月十二日附本官發在米各領事宛機密合第八二號往信寫御參考迄送付ス

（件名）

移民法問題ニ關スル件

機密合第八二號

昭和八年十二月十二日

在　米

臨時代理大使　武富　敏彦

在米各總領事及各領事宛

移民法問題ニ關スル件

十月十五日加州勞働聯盟書記長「シヤーレンバーグ」出淵大使ヲ來訪シ移民法修正問題等ニ付内話スル所アリシニ付御參考迄右會談錄一部別添送付ス

追而本會談錄ハ出淵大使歸朝ノ上本省當局ヘ手交ノ筈ニテ別ニ公信又ハ電報ヲ差控ヘヲリタルモノナルモ同大使ト桑港ニ於テ會見シタル沿岸領事ノ希望ニ依リ茲ニ送付スル次第ナルニ付右御含置アリタシ爲念

本信送付先　在米各總領事及各領事

本信寫送付先　外務大臣

（別　添）

加州勞働聯盟書記長「ポール、シヤーレンバーグ」會談錄

昭和八年十月十五日加州勞働聯盟書記長「シヤーレンバーグ」本使來訪移民法修正問題等ニ關シ大要左ノ通リ内話セリ

一、排日移民法修正問題ハ最近「ハワード」日本ヨリ歸還セル際桑港ニ於テ右修正ノ必要ナルコトヲ同人ノ所有シ居ル「スクリツプ、ハワード」系ノ新聞紙上ニ公表シタル爲忽チ問題トナリ平素右修正ニ反對シ居ル「マクラツチー」ノ如キハ直チニ「ハースト」ト會見シ反對意見ヲ「ハースト」系ノ諸新聞ニ掲載セシメ其結果太平洋沿岸ニ於ケル諸新聞ヲ賑シタル次第ナリ又之ト同時ニ「アレキサンダー」ニ於テ「ヒユーム」ヲシテ右修正運動ニ乘出サシメタル爲一層問題ヲ滋カラシメタル譯合ナリ（「ハワード」過日本使ヲ來訪各種ノ問題ニ付長時間會談セル際偶々

同人カ移民法修正問題ニ付「アレキサンダー」ヲ說キタルコトヲ打明ケタル次第アリ）「アレキサンダー」等ノ運動ハ其ノ實情ヲ述フレハ「ハワード」ニ煽テラレタル爲ニ過キスシテ別段深キ計畫アリテ爲シタル次第ニ非スト思ハル「ハワード」モ兩三年前同人ノ所有シ居ル新聞ヲシテ排日移民法修正論ヲ主張セシムル方針ヲ定メタルコトアリ今回日本旅行ノ際日本ノ有力者ヨリ右修正ノ日米國交改善上必要ナルコトヲ說カレタル事情ヨリ桑港ニ於テ修正意見ヲ發表シタル迄ノコトニテ別段積極的ニ運動ヲ開始スルカ如キ强固ナル意見ヲ有シ居ル次第ニ非スト認ム

二、自分ハ過去二十餘年ニ亘リ排日運動ノ急先鋒ナルカ如ク認メラレ來リ事實日本移民ニ對シテハ常ニ反對シ來レル譯ナルカ「アレキサンダー」トノ關係ヨリシテ次第ニ態度ヲ緩和スルニ至リ殊ニ先年太平洋問題調査會大會出席ノ爲京都ニ赴キタル際日本朝野ノ名士ト意見ヲ交換シ大ニ反省スル所アリタルモ自分ノ立場トシテハ今以テ移民法修正ニハ贊成シ得サル譯ナリ少クモ現行法ノ「クオータ」ヲ直ニ日本人ニ適用スル案ニ對シテハ遺憾乍ラ反對セサルヲ得ス只自分トシテハ豫テ所謂移民法修正ナルモノハ姑息ニシテ寧ロ根本問題タル歸化法修正ニ一歩ヲ進ムルコト適當ナリト思考シ居レリ御承知ノ通リ當初歸化法ヲ制定シタル際ニハ歸化シ得ルモノヲ自由ナル白人ト限定セルカ其後南北戰爭ノ結果奴隸ノ解放ヲ見ルニ及ヒ之ニ修正ヲ加ヘ歸化シ得ルモノヲ自由ナル白人及「アフリカ」土人及其ノ子孫（aliens being free white persons and to aliens of African nativity and to persons of African descent）トセル次第ナリ斯ク皮膚ノ色ニ依リ區別シタル爲亞細亞人タル黃色人種ハ恰モ歸化權ナキモノト認メラレ遂ニ大審院ノ判決例ヲモ殘スニ至レリ元來歸化ノ條件ハ教育居住年限其他米國ニ對スル緣故ヲ基準トシテ定ムヘキモノナリ故ニ將來適當ノ時機ニ於テ之ヲ修正スルノ必要アリト思考ス右修正ヲ見タル曉ニハ現行歸化法ニ依リ日本人カ歸化シ得サル關係上所謂歸化不能外人トシテ「クオータ」ノ適用ヲ受ケサル結果トナルコトヲ避クルヲ得ヘシ自分カ今回ノ華府ニ於ケル勞働會議ノ際ニモ右ノ點ヲ指摘主張シタル結果會議錄中ニ「排斥移民法ニ關シ該法カ其ノ現行規定中ノ若干ノ點ニ於テ歸化法ト牽連スル所アルニ鑑ミ歸化法ニ關スル法律規定ヲ變更スルコトニ依リ移民排斥ヲ修正スルコトノ可能ナルコトヲ記憶スルハ適當ナリ執行理事會カ本問題ヲ處理スルニ當リ愼重ナルヘキコトハ當然信賴セラルヘキモノナリ」（In connection with the exclusion laws, it is well to remember that in some respects, as at present constituted, they are geared with the naturalization laws in a manner which make it possible to modify exclusion by changing the provisions of the laws relating to naturalization. The Excutive Council of course can be relied upon to be alert to deal with this subject.）ト記載セシムルコトヲ得タリ移民法修正問題ヲ歸化法ニ結ヒ付クル方面ニ向ツテ更ニ考究スルコトトナシタルハ重要ナル新傾向ナリト得意ゲニ述フル所アリタリ（本使ヨリ歸化法修正ノ如キハ果シテ容易ニ行ハルルコトナリヤト試ミニ質問シタルニ彼ハ苦笑シテ其容易ナラサルコトヲ肯定シタリ）

三、一昨年九月滿洲問題發生シタルコトハ日米國交上ヨリ考ヘ痛嘆ニ堪ヘサル所ニシテ實ハ一昨年春頃ハ移民法修正問題モ追々進捗シ同年暮ノ議會ニハ何トカ目鼻付クヘキカト考ヘラレ居リタル際該事件發生シタル爲米國人ノ對日反感高マリ右修正ノ如キハ思ヒモ依ラサル事態トナレリ昨今ハ對日感情各方面ニ於テ追々改善ノ傾向ヲ示シツツアルモ尙根底ニハ相當ノ反感殘存シ居ルヲ以テ移民法修正ノ如キハ急ニハ行ハルヘキ見込ナシ尤モ米國ハ滿洲ニ於テ別段重要ナル利害關係ヲ有スル次第ニ非サルヲ以テ滿洲ノコトハ致方ナシトノ氣分追々一般ニ漲ルニ至レリ從テ今後意外ノ事件起ラサル限リ滿洲問題カ再ヒ米國ノ輿論ニ衝動ヲ與フルカ如キコト最早之ナカルヘシト見受ケラル自分ノ如キモ今後ハ滿洲問題ニ關シ別段議論ヲナササル積ナリ只日本側乃至加州方面ト利害關係ナキ東部米人等乃至宗教團体ニ於テ輕々シク移民法修正運動ヲ起スカ如キコトアラハ徒ニ加州方面ニ於ケル反對論者ノ感情ヲ刺戟シ諸般ノ問題ニ惡影響ヲ及スニ至ルヘシト懸念セラレ要スルニ移民法修正問題ニ付テハ此際暫ク沈默ヲ守ルコト適切ナルヘシト思考ス

四、露國承認問題ハ「ルーズヴエルト」大統領就任以來追々濃厚トナリツツアル處自分ノ見ル所ニテハ恐ラク遠カラス實現スルニ至ルヘシ勞働聯盟トシテハ强制勞働ヲ實行

シ勞働團体ノ如キモノヲ認メサル露國ヲ承認スルコトニハ反對ナル主張ヲ唱ヘ來リ現ニ最近ニモ反對決議ヲナシタル事實アルモ右ハ單ニ右ノ如キ主義ヲ標榜シ居ル結果ニ過キスシテ露國ト正式關係開カレ貿易增進シ米國產ノ機械類ノ販路開拓セラルルカ如キコトハ米國內部ニ於ケル景氣ノ恢復ヲ促シ其結果失業問題モ緩和セラルル譯ニシテ米國勞働者トシテハ何等不利益アル次第ニアラス從テ勞働聯盟ハ飽ク迄露國承認反對ノ爲積極的行動ニ出ツルコトナカルヘシト思考ス

五、右會談ノ際本使ヨリ(一)移民法修正問題ハ日米親善增進上重要ナル關係アルノミナラス米人ノ名譽ノ爲速ニ其實現ヲ希望スル次第ナカラ日本側トシテハ此際之ヲ「アジテイト」スル考ナシ(二)滿洲國ハ追々庶政改善ノ途ニ就キツツアル樣子ナルカ同國ハ天然資源富豐(豐富カ)ナルヲ以テ將來國際間ノ經濟單位トシテ重要ナル地位ヲ占ムルニ至ルヘキハ正ニ疑ナシ(三)亞細亞方面ハ米國ノ對外經濟發展上將來大ニ有望ナル地點トナルヘク其關門ヲ占メ居ル日本國ハ米國ニ取リ極メテ重要ナル關係ニ在ルヲ以テ米國人ハ其邊ニ想ヲ致シ小異ヲ捨テテ大同ニ就キ日米提携ノ途ヲ啓クコト得策ナルヘキコトヲ告ケ置キタリ

299

昭和8年12月20日　在米国武富臨時代理大使より広田外務大臣宛(電報)

斎藤新駐米大使任命に関する米国紙論調について

ワシントン　12月20日後発
本　省　12月21日前着

第八九二號

齊藤大使ノ任命ハ日米兩國關係ニ關心ヲ有スル當國各方面ニ多大ノ好感ヲ以テ迎ヘラレ居ル處主ナル新聞論調左ノ通

「ニューヨーク　ヘラルド　トリビユン」

齊藤氏ハ米國ニ多クノ友人ヲ有シ米國ノ事情ニ通スルト共ニ最モ有爲且近代的精神ヲ有スル少壯外交官ノ一人ニシテ同氏ノ駐米大使ニ選ハレタルハ幸福ナリ同氏ハ日米間ノ緊張ノ稍々緩和シタル際ニ來米スル事トナレルカ日米兩國ノ意向ニ通曉スルカ故ニ兩國間ニ存スル誤解ヲ一掃スルニ好適ニシテ先般來ノ難局ニ當リ排米感情ノ理由無キ事ヲ日本ノ有力者ニ知ラシムルニ盡シタル「グリユー」大使ハ同氏ト協力シ兩國關係ノ改善ニ努力スヘシ

「ワシントンスター」

凡ソ諸外國中齊藤氏程適當ナル背景ト素養ヲ有スル人ヲ大使トシテ派遣シタルハ稀ナリ米國輿論ノ熱心ナル研究者タル同氏ハ屢々日本ノ外交政策カ米國ノ贊成ヲ得サリシコトヲ知ルト雖亦同時ニ米國內ニハ日本及日本國民ニ對スル友誼的感情ノ極メテ鞏固ニ且廣汎ナルモノノ存シ斯クモ久シク友誼ト通商上ノ相互的福利ヲ齎ラセル兩國間ノ絆ヲ斷ツカ如キコトノ發生セサランコトヲ衷心祈ル者ノ多キコトヲ知ルニ相異無シ

和蘭ヘ轉電セリ